より不用なものが多いわけである。しかるに機械は人間に不用なものを取拂つて必要なものだけを提供する。オートバイを見よ、馬より早くして**不必要な部分品は一個もついてゐない**、實用一點張りで目も鼻もついてゐない、まして鬣といつた邪魔になる飾りものは無論である。

尾のない馬は、髯のないサンタークロースとともに形の惡いものであるが尾は舵器の働きもしない、何の役に立つかといへば惡童が毛を拔いてトンボを釣る時に使ふか――僕も幼い時にこんなことをやつて馬丁に叱られた――、又は織工場でヘアークロースを織つて洋服の下袴のスタイルが壞れないやうに表地と裏地との間に挿むくらゐのことで、蠅を拂つても長鞭馬腹に及ばないやうに馬尾長きも腹の下に及ばない。

龍頭蛇尾――龍には頭があるが蛇には尾がない、蛇に尾があるといふのは支那の領土に滿洲があつたやうなものである、支那は山海關が尻尾であつて滿洲國は別個の存在であるものを支那人は今までチヽハルが尾の先であるとも蒙古が尾であるとも思つてゐた、蛇はどこからどこまでが尾で、どこからどこまでが胴であるといふ境界が馬のやうにはつきりとしてゐ

ない。「支那とは何ぞや」であつて、**支那全體がそれ自身疑問である。**

滿蒙は外交の掃き溜めであつたから、こゝを交ぜかへしたらロシアの蔕もアメリカの種も支那の皮も出てきたが、日本が掃除してから大ぶん清潔になつた。思想上においては日露、經濟的には米日、そんなものが競馬してゐる。大滿洲共和國ができてソビエートの侵入に對する柵を樹てたが、戰場驅馳には若き駒はまだ脚が弱いからいづれは日露の赤白戰場にならう。

宇治川の戰ひは源平の戰ひであり、佐々木梶原の爭ひであり、又た池月磨墨の戰ひでもあつた。史上で名を揚げた名馬も多いが、現代では地上に自動車があり、上海の戰ひは飛行機の勝負であつた、道路のない未開地は航空機の活躍壇場であつて、モーターが馬に代つて働く。

戰つて支那に勝つことは易いが、支那をして心から日本を信頼せしめるのが困難で、前者は軍人の役目、後者は外交官の役目と、はつきりとした分野はないから國民總がかりで、こゝ五六年の間に日支融和して過去の行違の勘定を笑つて破算せねばならぬ。馬を水邊に引つ

はつて行くのは易いが、飲みたくないといふ馬に水を飲ませることは、強制してもできない相談である。支那馬が渇したら自然に水邊に行つて勝手に水を飲むであらう、それまで待つのだ、仕方がない。

K

麒麟は美しいが、あの走りざまはどうだ、彼女は佇立してゐる時だけは美しいが馬は走つた時に男性美がある、馬蹄の響きは妙な旋律ではないか。

猿は馬より智惠はあるが走ることはその得意ではない、馬の前脚が進化して手細工ができるやうになつてもそれは馬の本質ではない。古代の戰史に象、牛、駱駝はいふまでもなく豹犀なども兵勢を助けた記錄はあるが麒麟、猿、狼は戰に利用されてゐない。馬、牛、象自動車、飛行機船等の輸送を助けるものは發達したが、そんなものゝ合計よりも人間は矢張り脚を使ふことが多い、馬、牛、自動車、汽車、汽船等の總てを所有しても兩脚を削られたならば人間は不便を感ずるであらうが、汽車、汽船、電車といつたものが發達して今では室

内とか近距離の歩行だけにしか脚を使はないから二肢は退化機具となつてしまつた。日本人が机から鉛筆を落しても椅子に凭けたまゝ足の指先でそれを摘みあげることはできるが白人種の足の指は靴によつて一そう退化してゐるから、とてもそんな器用な藝當はできない、猿は靴をはかないから日本人より更に器用だ。

L

動力は植物質と礦物質とに妥協したが、まだ動物質とは融和しない。木で造つた船、鐵でつくつた飛行船、どちらも動力によつて動くが、馬の臀に發動機を付けても馬の速力を増加しないのは妙である。動かない木、動かない鐵でさへあれだけのスピードを出すのに、始めから動く素質を持つてゐる人、馬に動力をかける工夫に、科學者は動物質を峻拒する。

それにはわけがある。

動力の動物を嫌ふ理由は、木、鐵といつた中性物は休息しないが、**人、馬といつた動物質は休息したがる**、なまけ者である。人は八時間勞働、七時間勞働といつた生意氣な主張をす

るし、馬は人間ほど理窟を云はないが無暗に瘠馬の響をたゝいても、一定の精力を消費したあとは梃でも動かないほど拗ねる。拗ねるものと理窟をいふものは科學は好まない。默々として服從するものを選んで科學は乘り遷るから馬は昔ほどの威力を發揮しない。馬券を賭する競馬場で人を感激させるぐらゐで、駿馬も不遇時代になつて天下分け目の大戰にも馬は參加する資格を失ふであらう。

競馬は馬の脚にもよるが人の鞭にもよる、騎手の巧拙によつて勝敗に重大な關係を及ぼすが、**機械はさうでない**、精巧な機械は熟練工を要しない。誰れが操縱しても同じものができる

明智左馬之助の湖水渡り、勇壯な姿は畫に描いても駿馬と調和するが、牛に乘つたのでは面白くない、豚に乘つたら尙ほいけない、だが、琵琶湖だつたから馬でもいゝが太平洋だつたら飛行機でなくては及ばない、航空術が發達して太平洋が琵琶湖より縮まつた時が日米××の始まる時だ。

それまでは外交戰で水を隔てゝ理論爭鬪の礫を投げ合ふくらゐだが、外交辭令を裏返へして讀むと戰爭の脅威がある。正面から咬みつかないで後むいて蹴るところは外交は馬に類し

戰爭となつたら軍人が前から突いてくるところは牛に似る。

平和を愛好する精神は何人にも存在するが日本でも米國でも動力が發達すれば人間の生活を變態にしてしまつて、一本の針金で何千マイルの遠くに何千馬力を送り、勞働時間と勞働者數とを減じ、今でも生產行程の道すじに人間は辛うじて働かせてもらつてゐるが、科學がもう一歩進んだら勞働者全體を失業者として自働機械工場から驅逐して人間の力ではできない働きを機械が代行する、かくて海外市場の爭奪となり國民大衆の望んでゐない方向に進み生產は混亂に宙返りして**人類は好ぬまざる戰爭に流込む**、狂氣でも平氣でもない正氣の沙汰であり電氣の沙汰である。

M

乘りものは瘠馬である、騎士は拍車をかけた、一鞭又た一鞭、勞働級である瘠馬は急速力で走つた、資本家騎士は眼前の谷、溝、丘、カーブ、そんなものばかりを注意してその他を顧みてはゐられなかつた、道德も情誼も顧みないで、ひた走りに走つたが、向うからも同じ

狀態で疾驅してきた騎士と突當つた、どちらか一方が墜落するであらうが、それが負けであり戰敗である。馬の走つてゐるのは意識を伴はない動作に過ぎなかつたが幸福にしても疲勞し不幸にしては倒れる。人馬相提携して進むのではなく人が自分の意旨によつて進むたけで馬は不安のうちに何の意義もなく走つてゐたに過ぎない、これは馬に取つては進歩ではなく體の無理にして意味のない移動に過ぎない。時として水を飮ませてくれたつてそれが何の人の恩惠だ。見たまへ、水を飮ましたあとは水を飮ませない前より更に強く鞭うつであらう。

疾走のために取殘されたものは操持であり節制であり、安定である。走つたのは馬であるが、どんな徑路を通つてもその罪は馬にない、**平和も取り落された**、老幼は振り落された、孤兒院も養老院も顧みられない。女でも振り去られて勝手に働かねば生活ができないから家庭から街路へ出た、妻も娘も出た、三角關係も切りやうで四角ともなり、風紀は弛緩した。

N

動力により天然資源は開發され生産は激增し、すべての物資の利用は增して廢物として顧みられなかつた——たとへば褐炭のやうな——ものまで生産市場に活躍する。土地家屋まで騰貴するから世界の富は二十年にして五倍となつたが人類生活はだん／＼苦しくなる。

世界の富は人類の富であるが人類は富むに從つて不自由になる、身體も苦む、精神も惱む

野蠻人は文明人より動力に攻められないから却つて生活が安定してゐるのは、**彼等は貧乏なためてある**。

野蠻時代には人のみが働いた、少し開けてきて牛も馬も働いた、人間が五人かゝるところを馬は一匹でやつてのけた、人間が三日かゝるところを馬は半日で走つてしまつた。德川時代には馬が働いて人間が失業した、明治時代には仕事が多くなつたが働く男も殖えた、大正になつて少年が働き出して大人か失業した、昭和になつて總動員令でも下つたかのやうに婦人が働き出した、女がさう働いてくれては困るのだが、彼女らは無暗に働き出したから男性の失業者が增した。

機械が動き出して先づ男、次に婦人、次に少年といふ順位に失業せしめた、自動車が走り出して馬、人、鐵道、電車が失業する、人間が四ツ這ひになつて馬を背中に乘せて走るにあ

らされば、馬が自動車を擔いで走るにあらされば、そんなできないことをするに非されば人馬ともに失業する、資本、機械、動力の三藤八拳で、ぐる／＼と生活苦の火の車は廻る。

その八　戰場としての支那

A

支那の巨體は自らを中華と稱し他を夷狄として眼下に見さげてゐたその野郎自大想思に囚はれ、自ら外國の良制度を受入れて進歩するたけの雅量を持つてゐなかつたため、つひに今日のやうに、その規模においても深度においても比較のない搾取を招いた。各國はバラバラに切離された外交——しかし搾取に一致する外交をもつて支那を強要した、種々雜多の條約を持つてゐること支那ほど多い國は珍らしい。それが皆支那自身を縛りあげる條約ばかりである。

儒教が權威を失つてから土地に依存する支那の村落生活を結束する思想紐帶は無くなつてしまつて傳統と血族關係とを除いては、ただ僅かな社會的經濟制度が殘存するばかりで、ギ

ルドは今でも經濟上の家族を構成し、社會組織は地方分權で、國防としては無設備であつたから**帝國主義國家が經濟侵略の種子を蒔くにふさはしい沃地であつた。**果然、一八四二年に英國は先づ南京條約を植ゑつけた。

帝國主義列國から敎へ込まれて今では支那人自身によつて工業化しかけてゐるが、それはまだ漸く出發點を離れたのみであつて、その現象は都會の支那人生活に少しばかり閃めいてゐるだけの弱體國家で、本當に組織された統一體ではない。日本においても五十年前にはこれによく似た社會過程があつたが、支那のやうな擬制國家ではなかつた。

機械製品が潮のやうに入り込んで支那の貨幣を持去り金融帝國の壓倒力が支那の生活根柢を搖るに到つて、萬世不易の眞理と信じてゐた保守思想が破れて始めて革命的緊張の新段階に入らうとしたが、時はすでに遲く全身は不平等條約で縛りあげられてゐた。政治的改革を叫んでも反響は少なかつたが勞働組合の少數だけは、眼前の利害問題に釣られて幾分か覺醒しかけてゐる。

支那のやうな古い歴史を持ち舊慣を頑守してゐる國は、何世紀か前に定められた勞銀の基

本線から出發して計算するので、理論的主義を抑けて生活に卽する具體的現實が手つ取り早く埒をあける。**水は冷たい、それていゝのだ、**なぜ水が冷たいかといつたことは有閑學者の考へに任しておけばいゝのだ。

B

文明國の機械製品が入込んでゐるとはいふものゝ支那はまだ手工業國である、傳統を重んじてゐる國は機械製品は入り込みにくい、日本でも和室には機械でできないものが多く、床柱、掛軸、額、鐵瓶、疊、骨董といつた國粹的なものは機械製品に較べて割高な手工業から成つてゐるやうに、支那でもその通りである、まだ日本以上に傳統的であることを示すため一例として棺屋を話さう。

支那內地を旅行したものは陋屋のこずんだ民家の中に立派な工業商店をみ出すであらう。それは棺桶の製造販賣所である。棺桶は泗川、雲南あたりの名木を刳り拔いて一個數百圓、時としては數千圓のものがある、遺族は死人に對して棺代を惜まない、支那で身分不相當な

もの〻随一は棺桶ではあるまいかと僕は思ふ。こんなものは機械工業が發達しても傳統が壞れるまでは依然として特種工業として存在し自給自足せられるであらう。

その外に廣東あたりの象牙細工なども加へて、これらの特種手工業の多ければ多いほどギルド組織は堅く維持されるが機械文明は徐々に傳統を碎いて侵潤するであらう。**いま生活の變化が機械工業の波紋を擴げて奧地に向つて進みつゝある。**

手工業時代には働くことが奬勵され・失業したものは罪人と見做されたのは、働く意思さへ持つてゐたら何なりとも――不具者でも――職業があつたからである。日本における浮浪罪とイタリーにおける乞食罪が、それに近い。働くことは道徳的に人の義務であり經濟的には郷土にその必要があつたからであるが、現代では働かうにも働くことのできないやうに機械が職業を退治してしまつたが、支那の内地では働きさへすれば食へるといふ結構な大自然に惠まれてゐる、(もちろん日收は大洋銀十三錢で滿足しなければならないが)

滿洲に新國家が生れたからといつて、滿洲の住民が變つたといふではなし、依然として生活の低い人々である。滿洲國民が日本の物資を買ふのは滿蒙の農產物が日本へ送られて資金

化し購買力化と變じて後のことであるが、こゝに注意を要することは**滿蒙は農業立國で、日本は農民保護のため他國の農作物を成るべく輸入しない方針を建てゝ**ゐることである。農業政策において兩者の利害は相反してゐるが、滿蒙の農作物を日本が買はないで誰が買ふか。

滿蒙に突然購買力が生じたものと思ふのは何といふ早合點であらう、今滿洲國は四つのS――行政、財政、税制、幣制――を整理するに忙がしい、その整理期に無暗に生產品を持込んでも賣れるものでもなく、買へるものでもないが、習慣、嗜好、風俗、信用をよく知つてゐる支那の粗工業が日本の大敵として山東の移民とゝもに南支から入込みつゝある。

支那の原始的な奧地生活の中にも開港場の近くでは紡績業が機械工業のトップを切つて他の製粉、燐寸、製紙、製革、石鹼製造等の工業がこれに雁行し、鑛業、金融等も近代的形態を取つて經濟的基礎を据ゑ始めた、鑛產物についていへば想像埋藏量が世界鑛富源の四〇%を有してゐるにもかゝはらずその產出量は四〇分一%にしか當らない。鐵鑛の無限量を有しながら鐵を輸入し、綿花の產地でありながら綿花を輸入し、礦山も耕地も自然の富は手を着けないで貯藏されてゐる。その地上には廉價な勞働力をもつてゐる、油斷のならぬ怪物であ

る。
　國内において動亂を繰かへしながら製品の輸入は割合に増加しないで機械と原料との輸入激増は何を語るであらう、紡績機械が輸入されると三年後にはそれに應じた綿糸の輸入の減少が目につく、列國のパワーが支那の上に角逐してゐる**その下で支那自身は目ざましい經濟的革命を進めつゝある。**

C

　上海とか天津とかを觀ると手工業者も多いが賃銀勞働者もまた多く、そこには近代的分業が展開されてゐる。勞働者は資本家から命ぜられた仕事に携はつてゐる以上は必らず**機械の毒にかゝつてゐる。**その勞働は大きな長い生産過程の一小部分にしか關係してゐないから文明の弊をうけて、かういふところには勞資の軋轢が尖鋭化するものである、支那は機械工業の益を受ける前に、すでに機械工業の害を受けつゝある。
　怒り易く激し易い開港地勞働者の性格を利用して不逞の徒が一ばん効果的な排日を煽り、

支那人本來の性質と全くちがつた群集心理をモツブ化せしめる。排日に成功したら次に來るべきものは總括的排外であることを知つてゐる英佛あたりは日本が上海で支那と衝突する時は日本の膺懲が徹底的であつて排外の根幹を拔取つてくれることを望むであらうが、日本が成功したら日本の勢力が遠く伸びることも恐れてゐる。注意せよ、**日本の勢力よりも英佛に取つては恐るべきものが天窓から覗いてゐるのではないか？**　興安嶺から内蒙古を經て廣いドライブウエーが手を伸ばして支那とソビエートとを繋いでゐるではないか。赤い魔風はそこから吹く、それを防ぐものは東洋における唯一の資本主義帝國である日本の外にはあるまい。

D

　佛、英、××のやり方は舊式であつた、領土侵略といつても支那全土を一國で征服せられるものではない、僅かにその何百分の一かを得て、しかも他の列國からは侵略主義の名をもつて呼ばれ、支那民衆からは仇敵視されるが、たゞ米國だけはそんな汚名と怨恨とを買ふこ

となしに漸次に支那を併呑しやうとしつつある。**今ですら支那インテリの心は完全に米國に占領されてゐるてはないか。**米國は貿易、宗教、金融で支那を占領して領土に手を付けないかやうにして支那人全體を隷屬せしめたならば、それは支那全土を得たのと何の差違もないのである、ゆゑに門戸解放を固執して他の强國が支那の領土に指を染めることを恐れる。米國の心はすでに支那全體をそつくり我物にしやうとする、それは新式の鮮やかな侵略である。

日本の鵜の首を押へて山東の鮎を吐き出さしめ、二十一箇條の中核を砕き、軍艦の比率を低下せしめ、南洋諸島のうち主要な點には委任統治權を拋棄せしめ、軍縮會議では脣から舌まで銅鐵で武裝した樽俎折衝を續けてゐる。

支那で揉み合つてゐる列强の中で獨り米國だけは耳ざわりの惡くない平和主義を唱へてゐる。平和の續くことは米國金融占領の漸增と擴張とを意味するから、このまゝに放置すれば**支那が米國に隷屬するばかりてはなく、支那に爭つてゐる列强も米國に服從せねばならぬやうになる。**

米國の專恣を挫くには一日でも早ければ早いだけ列國の便宜である。歐洲諸國は大戰の創痍が癒えないから一日も遲きを便とするであらうが、あの創痍は膿みかつ腐りかけてゐるから、いつ迄待つても回復の見込がない上に米國の積極的進出は何の猶豫期間を與へない。日本を除いて支那における米國の併呑政策を防止するものは決して無いのであるから歐洲諸國が國際聯盟まで米國に服從させて日本の勢力を支那から追ひ出さうとするのは東洋の事情に對する認識不足を自白するものである。**日本は東洋の運命を擔いて死線を超える悲壯な決心をもつてゐる。**

E

歐洲列强より後れ走せに支那紛爭に參加した米國は門戸解放といふ旗印をもつて支那へも滿蒙へも押込んできた。滿蒙に關する限り日本は一歩も讓歩しないため、又たソビエートの進出を防ぐべき日本のやうな本土、朝鮮、滿洲に張られた鐵道網を持たないため、如何とも手の下しやうもなく今日に及んだが、それまでに東支鐵道を買ふことも滿洲鐵道の日米共同

管理案にも、金で面をはる政策は日本の不服で、どれも成功しなかつた、**日本はいくら貧乏でも金のために生命を賣るほど窮迫してゐなかつた**からであつた。

米國は政治的には後れてゐたが、その偉大な經濟力をもつて前に立つた列國を暗殺しながら今日では目ざましい進出を遂げた。

米國の東洋進出の鋭いことは次の數字によつても明かである、——一九二七年を基數とする昨年（一九三一年）——の輸出額增加は、歐洲へ八〇パーセント、アフリカ三五〇パーセント、ラテン・アメリカ一九〇パーセント、カナダ及びニュー・ジーランド一八〇パーセント、オーストラリア二八〇パーセント、アジア四〇二パーセントである。

いま米國に太刀打ちのできる怪物はソビエートロシアの外にない、——五年計畫の宣傳をそのまゝ信用するとして——、石炭、木材、小麥は確實に米國に敵對することができる、鋼鐵もやがてその列に入るであらう、貿易戰に十分な野心をもつソビエートも金融力の不足で待機狀態にある。

米國が日本を憎むことはソビエートに親しむ意思ではない、日本を憎むと同時にそれ以上

にソビエートをも併せ憎んでゐる。日本が赤色恐怖の屏障である滿洲國を支持することは米國を怒らせるが、しかしソビエートが滿蒙に反帝國主義を宣傳することも米國の好まないところである。日本にしても滿蒙に出しやばる米國を怒るといへどもソビエートに對して好意を持つわけではなく、米國以上にソビエートを恐れてゐる。滿蒙における日本の勢力增加もソビエートの勢力增加も、ともに米國の好むところではない、**米國自身が滿蒙に勢を張るにあらざれば彼は滿足しないのである。**

F

白人國相互においては、もはや賣込んで利益を奪取すべき餘地のないほど生產機關が有り餘つた。その緩衝地として印度、支那、南洋、アフリカ、オーストラリアに突入して生產物の捌け口を求めて、滯貨の幾分を減少することを得てゐるが、支那にも印度にも近代機械工場が設けられて、もう暫くすれば送り込んでくる商品をはね返へすだけの力を備へるであらうから、買へといふものと、買ふまいとするものとの衝突となつて**高度に進んだ工業國の攻**

勢に對する新進工業國の防戰は激化するであらう。

いま世界は五つに分類されてゐる、上位には米國、別格上位には佛國、その次が英、伊等の戰勝國、その次が獨、墺等の戰敗國、その次は第一線から退却した國家、オランダ、ノールウエー等、ソビエートは張出しとして、最後にラテン・アメリカ、屬領地、委任統治國、支那がある、ラテン・アメリカは北米合衆國の搾取地であり、屬領又は委任統治國は各々その所屬する本國の支配に從ふが、ひとり支那だけは特異性をもつて名は獨立國でも各國が力次第で搾取のできる共有搾取場のやうな觀を呈してゐる。

これは支那の知つたことではないが、誰がこんな無茶をしたかといへば列國であるとはいふものゝ、そのこゝに到らしめたのは支那自身が招いた禍である。

G

支那人は政治と生活とがバラ〳〵であつて政府を信頼できないから吾身それ自身を信頼するより仕方はないが、法制のない國では個人の生命財産といつたものは楊花より輕く散り去

る。

支那人は大別して二種となる、核のない觀念の固執者としての奥地の大衆と、外來思想を注入された開港場の少數の近代人とである、少數であるが近代人が自餘の多くの人を束縛したり走らせたりして彼等は決して到達されない理想に彼自身を追求して、究極は**米國のために玉座を用意してゐる。**

H

一たい支那の政治の中心はどこにあるか、一時は北京に在つたが市民の知らないうちに黄河を渡り長江を越えて南京に移つてしまつた。

北京が北平となり、省の直隷といふ名も降下されて河北となつたが市民は政府を引つ張つて歸らうともしないで荒廢に委せてゐる、同時に大原にも廣東にも洛陽にも首都と稱するものができた。

古いことはいふまい、最近のことに及ばう、南京政府が支那を統一して暫くは政治の中心

を成すであらうと信ぜられた。文化首府として土木を起し大きな道路と高い政廳、それに孫中山の陵墓――レーニンのそれに比すべきもの――を配して現代都市の形を具へかけた。それが四年と五ケ月目に一夜の中に――**誰も知らない間に消えてしまつたのだ。**誰も知らぬ――それは實際に知らないのである。

四億八千萬民衆のうち蔣と汪と二人の巨頭が朝のうちに相談してその日の午後四時半に突然に、本當の突然に飛行機で飛んでしまつた。あとのものは重要書類をかゝえて浦口から汽車で北上した。

夜が明けて中央政廳の貼紙をみれば、首府は洛陽に移轉したとあつたから市民は膽をつぶした、と、書くのは日本人らしい書き方である。支那人は決して膽も頭もつぶしはしない、又た行つちまつたか、**何と、臀の輕い要人だ**と、三々五々掲示板の前で感心してゐる程度であつた。

會社が移轉するのでさへ裁判所に登記をする、定款の定むるところによつて公告もするのだが、支那政府は國法も定款もない、あつても無きに等しい。市民の氣の付いた時分には――新聞さへ知らなかつた――政府の印璽も首府とともに夜逃げをしたあとであつた。

南京落ちは支那に取つて惡いことではない、南京に首府を置いたのは大きな誤であつた。楊子江の南に都した國は必らず滅びる歴史を持つてゐる。南宋はこゝに都して元の伯顏將軍にやられた。三國、六朝と古きを溫ねるまでもない、南京は楊子江の要害だけを頼みとするが南京の古跡は悲劇と哀史とをもつて滿たされてゐる。

「英雄一たび去つて豪華盡き、たゞ青山の洛中に似たるあり」といふ許渾の詩が吟じてゐるやうに「楸梧遠近千官の塚、禾黍高低六代の宮」の跡がたゞ廣い廢墟に殘つてゐるのだから**南京に遊んだものは悽慘の印象のみを受けてくる。**

―

南京を去つたのは善し、その去つた動機が惡い。それは日本の脅威を避けるためと稱してゐるが、それは口實であつて、上流に蟠居する共産匪が恐ろしいのであつた。日本なら國際公約もあることであるから上海で交戰しても無抵抗である以上は南京を陷落させることはあ

るまいが、共産匪は攻めたら山林に逃げ込み棄てゝ置けば集團を作つて漢陽を狙ふ、いつかは南京も包圍せられる形勢にあつたからである。

しからば今度移轉——といふより飛び去つた洛陽といふところは南京に優つてゐるかといふに、これも亦た首府としては落第の試驗濟みで、**こゝも亡國の歷史をもつてゐる。**宋の李易安は「洛陽は天下の中に處り、殽黽の阻を挾み、秦隴の襟喉に當り、趙魏の走集、蓋し四方必爭の地なり、天下事なきに當つては則ち已む、**事あらば洛陽必らず先づ兵を受けん**」といつてゐる、洛陽だつて、その附近の鄭州でも開封でも天下の中央だけに政令を布くには便宜ではあらうが港に遠くして近代都市ではない、内亂となつたら眞先に兵を受ける危險地である。

洛とは河の名であるが、日本でも當時の首府であつた京都を支那にあやかつて洛陽と唱へて鴨河を洛水に擬したもので、今でも京都へ行くのを入洛するといふ。京都奈良附近には洛陽式の建築物や畫、彫刻などが殘つて多く國寶となり國家保存物となつてゐるが、却つて本家の洛陽には見るべきものが何も殘つてゐない。

南京は外敵防禦に適せず、洛陽は内亂においては日本の京都のやうに四方から爭奪の巷となり、しかも要害堅固なところとはいへない、難攻不落といふ觀點からいへば咸陽が一番であらうが鰻が石垣の中に潜つて要害を負んでゐるやうな消極的なところである。すべてにおいて一利一害はあるが、やはり北平が一番理想的らしい。と僕は思ふ。

たとひ首府がどこにあらうとも、**あんな無茶な政治をして、どこに身の安全を求められるか？**すべての義務を一拋に附して、遷都を手輕く決行する支那は、家賃を拂はないで近所の小賣店を踏み倒して夜逃げするものと何の變りもない、彼らは夜逃げの常習者である。

」

日本人と支那人とは同種同文で同じ思想を持つてゐるやうに思はれるが、或は南宋時代までは支那の感化が大に日本に加はつてゐたであらうが、**現代では皮膚の色の外は全く違つた存在である。**

白人は日本の動きと支那の動きとを同じ認識思惟の根本形式 Category に置いてゐるから日

支が隣國でありながら相反撥して根本的に融和しないのを訝つて、それを日本の罪に歸するのである。

支那と日本とが近代に到つて類似點が無くなつたのは支那が變つて日本が傳統を保守して變つてゐないためではなからうか、支那で衰へた儒教、佛教が日本の指導精神として殘り、唐宋時代の漢詩漢文が愛誦せられ、支那趣味の建築、美術が日本で神聖視されてゐる。

天然の恩惠が二國に對して大きな偏頗を與へた。日本は忍苦と悲嘆との間に建設を爲し、建設が成らざるに地震といふ大自然の飜弄がある、又た建設する、又た破壞する。支那にも日本にも洪水はあるが、日本は山脈を脊梁とする細長い國土であるから洪水は急激にかつ猛烈で、退水の跡は砂礫で埋めるから耕地は荒涼たるものとなつても移住すべき土地がないから更めて開拓して美田とせねばならぬが、支那の洪水はその來ること徐々であつて上流から肥沃な黒土を運んでくるから退水したら肥料を要しない良田となる。洪水に災されても別の土地に去つたら、どこにでも耕されないで棄てゝある一望千里の沃野が待ちうけてゐる。彼らが飢饉に當つても絕望しないのは、かやうな天の愛顧を享けてゐるからである。

K

支那を維持するものは氏族の連帶責任感であつて國家の法制は家庭から拒絕せられてゐる家族が單位となつて村落を、村落が單位となつて省を構成してゐるが、省が單位となつて國家を構成してゐない。バラ／＼に切離された國家十七八が別々に機能を持つてゐる、これを一括した支那として說明することは講義にもならず結論にも到達しない。

勞働運動も新聞紙上では盛んであるが、あれで果してプロレタリア革命が成し遂げられるであらうか、**不完全な革命は半熟のまゝ殘されて革命以前より惡い結果を招來した。**民衆を帝政時代のまゝに置き去つて智識階級のみが共和制を布いたが、それが少しでも民衆に響いたであらうか。專制者が他の獨裁者に席を讓つたまでで、幸福であつた天惠國民が人爲的に秩序を破壞されて到るところに怨嗟の聲がある。

こんな悲劇は改革の過程に附きものであるとして冷然として見過すことが果して政治家の道德であらうか。

L

半世紀前には支那も印度も自給自足で何の不平もない穏やかな國民であり日本でさへもその通りであつた。しかるに今日では海嘯のやうに先進國から突付けられてゐる輸入品は消費を混亂させて今さら自給自足に戻れないほど掻き交ぜられてしまつた、白人の不道徳な賣込み競爭に累ひされた**東洋人共有の迷惑である。**

個人と個人との間に非道な財貨爭奪が始まり、個人の集積である國家と國家との間にも同じことが演ぜられる。アフリカ、印度、日本を荒し廻つた機械力が今支那に集中されて禹域四百餘州は對立と衝突との舞台となつて、四億萬衆は生活に堪へないほど低廉な勞銀のその餘剰のないはずの懐から餘剰を搾つて外國商品を買はせられてゐるのである。

形勢は少し調子を換へてきた、歐米の資本家が支那の安い勞銀を利用して膏血制度の下に支那に工業力を据ゑつけ、こゝに利潤搾取の基礎を建設するから高賃銀文明國家は本國において工場を鎖し、勞働者を遊ばせ、搾取するつもりの國から却つて經濟的に不道徳のシッペ

をかへさせるやうな立場にならうとしてゐる。これが本國においては不景氣の景象となつて現はれ、本國は失業者を養ふに莫大な國費を浪費せしめられる。

購買力の伴はない過剰生産が世界に溢れて冒險的外國市場爭奪戰は、**金力と動力とが暴れ廻る米國の參加によつて激化した。**

支那に据付けられた機械は支那人のために働く。なぜならば機械には國境感念がないから英國に据ゑられた機械が英國人のために働くやうに支那の機械は支那人に味方する。その機械の聲を聞け……お前は心配することはない、俺には熟練工を要しない、俺は据付けられたと同時に四億八千萬民衆の必要以上の大量生産をするために俺は回轉するのだ。輸入防止、オーライだ。安い原料と安い勞銀とを俺に配したら價格において白人の製品は一と薙ぎだ、そろ〳〵輸出の用意をしろ、と、これだ。

M

支那は利拂ひさへ出來ないほどの窮地に陷つた——彼れは陷つたのではなく被動的に陷い

れられたのだといふ、それは尤も千萬だ。貸借は合意によつて成立するとはいふもの丶、貸手は十分な餘裕があつて貸さなくとも濟むのだが、借手は借らなければ立ち行かない窮迫狀態に在るのを常とする。

それを見込んで貸手は十分な條件を出して押へつけるから、**かやうな平等の力を備へてゐない取引が借手に取つて殘忍なことは始めからわかつてゐる**。しかしそれが合法的に契約となつた後は、國際的に履行の義務が發生して、それを踏倒さうとすれば無茶に尻をまくるの外はない。

支那が無茶に暴れ出して常軌を失つた時は外交的に眞空抗議書を送つても鼻紙にされるだけである、抗議が支那に對して効果を奏すると思ふのは素朴も甚だしい。

支那は無心臟の存在だから、どこを突いても致命傷とはならぬ。

脈絡ない愛國運動も學生騷動も一黨獨裁で言論を一軌にし、國民の耳目を隱蔽するから正しい判斷を誤つて、志士の雛兒である純眞な學生までが書籍を抛つて學校を破壞したり停車場を打倒したり、妙な方面に愛國運動を向けるが、それは黨の指導部が學生を誤らせたもの

であつて彼らの盲動は政府の責任である。

支那人は平和な民であつたが、無謀な反抗を企てるところにまで列國が追ひつめた、その餘波として日支兩國間にも敵對的要素が相當に積みあげられてある。

多數の資本主義國家が搾取の觸手を延ばしたから支那人の眼からみれば、どれもこれも惡魔の甥と見えるであらうが、日本だけはさうではなかつた。共存共榮の原則を支那に求めやうとしたのであつたが、支那の諒解するところとならなかつた。

日本にも外交上の失敗があつた上に貿易業者は日本の國是を理解しないで例の奥の手を出して暴利を貪つた、支那浪人は姿を變へた倭寇となつて荒し廻つた。支那の對日感情は惡化して事毎に日本と衝突した。

支那は近い隣人より遠い仇敵に助けを求めた、國際聯盟に挺入れをしたり、米國の他力で日本を驅逐して、紫金山の頂から日本の敗退を悠然として見物しやうとした、彼れは三國干涉以來無防備で日本に勝つ良策を會得したものと信じてゐる、國際的無錢飲食者である。

上海事件、滿洲事變、ともに過去における外交上の淸算であるよりは、將來に向つて日本の

大陸發展の希望の一端であらねばならぬ、しかるに從來の外交が折角の成果を帳消しにして尙ほ支那人の怨恨だけを殘したことは、遠く三國干渉を援用するまでもなく、シベリア出兵青島攻略等の遺恨千秋の生々しい記憶を喚起し、今度の事變において亦た往年の失敗を繰返へすのではないかと、外交官に對する頼りなさを感ずる。今度といふ今度において尙ほ國民義憤の反射光を浴びて外交官が働いてくれないやうなら外務省の看板を撤廢させねばならぬ。**上海事件は日本の大陸政策を具體化する第一段階であらねばならぬ。**

N

支那の軍人は文官に比して餘り尊敬を拂はれてゐない、人民はその搾取と掠奪とを怖れ、その部卒は人間として最も卑むべきものとされてゐる、しかるに日本では政府の支配以外に立つて　天皇に直屬し帷幄上奏の權を有し統帥權は議會から超立し、武力が日本全體の生活を維持してゐる。なぜならば、日本人は國防が不十分でなかつたら工業原料はいふまでもなく食料さへも得られないことを知つてゐるからである。國民は軍部を支持して軍隊的規律の

下に一致せねば、排日侮日に逢つても隣國の爲すがまゝに運命を托せねばならぬ。從つて支那式の個人主義は成立しない。そんな國情から枝葉が出て今では全く種族を思想的に違つたものとしてしまつた。

北米の半分强の人口が北米の十分一の廣さしかない日本本土に塡つてゐるのだから、戰爭の要素が老幼男女込み合つて緊張を續けながら運命を開拓して行かねばならぬ、これを支那人の惠まれた自然の懷に抱かれてゐる生活に比べたら同じ東洋人でも環境によつて性情の變化を免れない。

支那の兵士は一種の職業であり兵匪は一の失業者である、戰ふにしても何の理由も知らないで機械的に大砲を撃つだけで少しの亢奮もない、敗けたら生きて給料を踏み倒され、死んで草原に遺棄される。

國民的戰爭はそんなものではない、戰時には憎惡が激發すべきものであり、この憎惡は交戰前から双方の間に醸されてゐなければならぬ、その激情の正否が戰によつて解決せられるのであるが、支那の兵士はそんなことには無關係である。苦力、失業者、匪徒、共匪の混合

で世界最惡の軍隊を組立てゝゐるのであるがそれでも日本の兵を指して東洋鬼子と呼んでゐる。戰爭は國民鬪志の反射作用として現はれるものであるから支那のやうに將帥に熱がなく國民に憤りのないところは、いくら訓練したつて強くなるものではない。上海事變で日本の兵と戰つた第十九路軍などは最も精鋭なものといはれ、新鋭の科學戰で相當に日本兵に敵對したものであつたが、結果はあの通りであつた。ドイツ將校に指導せられて相當に規律もあつたが、敗退の際は掠奪一空をやつた。むしろ不正規兵である便衣隊、高粱の蔭に出沒する馬賊などは一種の義氣があつて割合に頑強であつた。

○

支那は正規軍二百三十萬人を養つてゐるが、この數は實數ではない。地方軍權は中央政府から軍費を賄はれてゐるが實數は十萬でも十五萬と報告して差引き五萬人分は軍閥の懐を肥やすこともあり、裁兵が叫ばれて兵數を減少せねばならぬ時は自分の兵數が削られるから、勢力を維持するため實數十五萬を十萬と報告することもあり、中央の支配力の及ばないところは思ひ〱になつてゐる。ソビエートは支那の半數強であるが機械化戰備を充實せしめてゐるから國防威力は總括的に帝政時代より飛躍した。

日支間には戰爭らしい戰爭は無かつた、**將來といへども嚴格な意味を持つ戰爭はあるまいと思ふ**。なぜならば戰爭の本質は暴力をもつて敵を脚腰もたゝない程度に打ちのめすことにある、しかし支那は敵ではない、白人侵略に對する共同防衞者である。支那を荒廢せしめることは日本を弱めるものであるが、ただ日本の國是を擴げる便宜において、局地的に彼れの抵抗力を失はしめる程度で、しかも列國に遠慮しながら上品に暴力を使用せねばならぬ苦しい立場にある。滿蒙事變といへども國際法上の慣例を政治的手段に使つただけのことであつた。

國民と軍人と外交とが戰爭に演ずる役割は重く、その時によつて三つの中に使用の強弱はあるが、日本の強いのは軍人だけであつて、他のものはこれに添はなかつたために何度でも日支間に紛爭を延長してゐる。特に外交において一ばん劣つてゐるのは必らずしも日本の外交官の無能ばかりではない。

いま世界に行はれてゐる道德律は皮膚の色によつて厚薄濃淡がある、白人が行ふ道德は黑人に許されず白人が支那におけると同じ行爲が黃色なるがために日本人に許されない。そんな原則の下に干渉され、同色の緣ある支那人も白人と組んで排日を始める、彼は白人には利權を與へるに寬大であるが日本人に對しては極めて拒否的である。

日本がもし白人と同じことを支那に行つたら感情に根ざす本來的な憎惡心が勃發する、しかし死物に向つて無効な攻擊を企てても息の根は止められない。東洋人相互間にはどこまでも依存性を忘れてはならないが、**白人が參加する時は、さういふ內輪關係では濟ませられない**。なぜならば白人は外來者であるからアジアの土地に對して愛着感念を持たない、こゝが荒廢したら本國へ去つたらそれで仕舞ひである、從つて搾取は地軸にまで精分を吸ひつくして、次の年の收穫がどうならうとも考慮の中にない。

國際貸借の亂麻は各國が金本位を罷脫したことによつて慘澹の度を增した、航海、航空の爭覇戰で貧乏の上塗を競爭してゐる。こんなものは武力の無限界的進展を助ける働きをするものであるから何の利益にもならない企業を東洋に集中せしめてゐる、それを辯護する外交

辭令は物理的發言に過ぎない。

P

支那を誤らせたものは經濟的國家主義と國際協調といふ眞空的平和とであつた、そこを說明してみやうと思ふ。

日本が滿蒙で頑張つたのは日本の天職であるといふよりも、あれは自然的行爲であつたといふ方が穩當であらう。

日本は北から南へ支那へ發展してくる道程でストレンヂャーに出逢つた、それは英國の帝國主義であつた。

自國領土の總ての資源は絕對的に自國民の所有であり、他國からの商品輸入と勞働力の浸潤とを許さないといふ主義、その經濟的國家主義だけなら單純な自我主義として認容せられないこともないが、自分より劣つた國に對しては自由に資源を占有し、さらに自分の國の過剩なものを勝手に押付けるといふ利己政策を加へた、この無理を貫くためには武力による壓

制を必要とした。

米國は無論のこと、英國もソビエートも資源を日本に向つて塞いだ。支那も白人たちの口癖の一部を取つて領土内にある利源の絶對的獨占權を日本に主張した。併し支那が主張する以前に支那の權益はすでに日本に書入れとなつて日本の進行の豫算中に加へられてゐるものである。これは權益拒絶でなく既得權の奪回である。日本が最少限度の希望をさへ許さないとすれば日支間の國交に大きな罅裂を生ずるのは當然である。

白人諸國が經濟封鎖をもつて日本を威嚇するに對抗して日本も覺悟せねばならぬ。台灣と福建との水路を塞いで、これから東北における物資をもつて自給することは、支那にも豫め含んでおいてもらはねばならぬ、**この袋地の制海權は日本のものである**。買手がなくて困つてゐる時代に日本を經濟封鎖して、苦むのは誰であるかを白人諸國にも豫め承知してかゝる必要があることを注告して置く、特に念をついて置くことは**日本は入超國である一點である**

歐洲帝國主義のコールドンサニテール（陸境隔離地帯）によつて西方の門戸を鎖されたソビエートは再び注意の眼を東方に向けた。ソ國は今直ちに日本と衝突することを好まないが

計畫が熟したら、どうせ主義の上からでも一戰を交ゆべき前途を持つてゐる。

現在としては日本と決裂しないで、支那からペルシヤ、トルコ、アフガニスタンを聯ね、エジプトとインドとの間に大きな隔離の楔を打込まうとして、これらの民族に向つて思想的連繫を望んでゐる。

この間に日本が一と休みできると思へば大きな誤りで、思想的潮流が襲ひかゝつたら、出來てまだ弱い滿洲國を風靡し、一石一木といへども動かされないものはなからう。

ロシアが帝國主義を棄てゝ、たとひ表面だけでも共産主義をもつて支那に臨むに到つて日本は極めて不利な立場に置かれた。日本の善隣主義は、かなり古くからの國是であるが今ではすつかり支那に嫌はれてしまつた。かうなつては外交を越えて武力を使用するも止むなき破目となつた。日支兩國のために、これを吊ふ。

Q

猿に對して人間になれと命じたとて、それは無理であるが、養成したら猿だつて人間のす

る芝居でもするといふ不自然になる。**教へ込まれた猿は、猿自身に取つては獣類の本質を失つてゐる、**藝が上手になればなるほど本質から遠ざかる。

人間が猿の後裔であるといへば誤つた進化論に憑かれてゐるクリスチャンたちは怒るであらうが、日本人なら怒らない、先祖がエテ公であらうとも、そんな系圖はどうでもよく、却つて傳統のないのを誇つてゐる米國人が氣にかけるのだ。

猿は軍人思想を吹き込まれると自らを罪人として承認する。クリスチャンは自分を哀れむべき罪人として認めるだけで、懺悔しないのは、その罪を累ねても十分間の祈禱で罪障が退散してしまふからである。世界の武力征服といつた人間の本質に遠い手段でも、彼は神に祈りながら人に大砲をうつであらう。

金に憑かれてゐた人間が、次には機械に憑かれ、又た戰爭に憑かれてゐる、**戰爭の慘禍を忘れて到達されない世界征服を追跡してゐる人は氣の毒なものである**、そんな夢を驅逐して後に自身が安眠の快味を知るであらう。

併し平靜に暮せない、事を好む國民に取つては食用としての鼠がなくては、猫は活躍の機

會がなからう。用事のない滿蒙にまで出かける——**貪慾は彼らを多忙に追ひ立てる。**

R

僕はこの章の末段において**心から善き友人として支那人に注告したい一點を持つ。**

僕は相當に支那を惡罵した、支那人は僕を好ましからぬ日本の一成員と思つてゐるであらうが、僕の次の一言は氣を大きく持つたアジア人として日本も支那も包括した高所から省察したものである。僕の前に著した「日本は衰へるか？」の一書は、いさゝか支那にも賣れた又たその一節が支那文にも飜譯されて中華民國人にも讀まれたことでもあるから、この書も或は、わが隣人に讀まれる光榮を有するかも知れない。それを期待して僕は中華民國人のたとひ一人でも共鳴者を得たいと思つてゐる。

中華人の經濟的に苦んでゐるのは世界的不況の上に特殊の國難が加はつて二重になつて、しかも前途には豫期されるいろ〳〵の國難が加重して、だん〳〵深刻な淵に落ちて行きつゝある。これを救ふものは目前の黃金であつて深遠な學說ではない、と誤解する。

歐洲諸國は陰氣な經濟學說を持つてゐるが黃金を持つてはゐない、金貸しの職業と實際の金とを持つてゐるのは米國である。いま苦難に落ちてゐるもの〻吭を潤すものは遠き未來の水道の良水よりも手近な濁水である。それを爲し得るものは日本でも歐洲でもない景氣のいゝ米國である。米國はそれを成し得るであらうし又た成し得るといふ老舖としての信用を持つてゐる、だから中華人が日本や歐洲を袖にして手を米國にさし延ばすことに就いて、僕は無理とは思はない、どうです、これ以外に中華民國人の外交心理を說明する言葉はあるまい米國はそこに乘じて、すつかり中華人の氣に入つてしまつた。他力本願者には國難の暗中に一つの光明を認めたといつても差支はない、**僕は無理のない悲願であつたと思ふ。**

だが、そこに考へねばならぬ一事が殘されてゐる。

米國そのものは繁榮を續けてゐるか、否や、いま反動的に不景氣の雲は米國を被覆してゐないか。この不景氣が果して打開されるものであらうか。金の流出は續き、國內政策として物價を高くしたが在荷は增加する一方である、この逆潮を打開しやうとして不自然な煽揚を試みてゐるが何の效果もなく、無謀に近いインフレーションの注射をやつたが、病人は左身

に臥てゐたが、それが右向けに寢がへつただけで、起き上らうとする元氣も出なかつた。昔は元氣でスポーツの選手として先頭を切つたものが今では自由も利かない中風症にかゝりつゝある。

無理な景氣煽揚策が他日の祟を成して病勢は惡から最惡に進むであらう。失業者も、銀行の閉鎖も、工場の休業も、米國人の好きな世界一ではないか。

現實の不況を直視するに堪へないで、目を瞑つて好景氣の紙ラツパを吹いてゐる。好況か不景氣かはその疑問符を消してしまつて、明かに不景氣のレツテルを貼つた。

將來に望みある中華民國人、いま沒落に向ひつゝある米國人、この二つの立場を注視するがいゝ。

僕は米國に身を委せてゐる中華民國人を氣の毒に思ふ。中華は中華自身の力で立上らねばならぬ。**アジアは日支兩國民の力で振興せねばならぬ。**吾らはエポツクをつくらねばならぬ縋つてはならない他力に縋るから、縋られない國が武力的に抗議を申込むことになつて、こゝに中華民國人が自ら好んで自國を世界の戰場として提供することになつた。

上海事件の起つた當時に日本では總選擧が行はれてゐた、政友會が軟弱外交の民政黨に對する大勝を博したのは、米國及び國際聯盟に對する强硬政策が人民投票によつて確認せられたものである。無產候補者が獲得した總數が前回の五十二萬から二十七萬に激減して、それだけの票數が對外硬を標榜する政治家に加へられた。

列强が支那に向つては外交辭令でどんな甘いことを云つてゐるにしても、國家主義の進展は世界的大勢であり、どの國も同じ道を步んでゐる、米國は特に先頭を切つてゐるのである**極東の平和提唱は日本に申入るべきものを、國家的恐怖病者は取ちがへて米國に申込んでゐる。**

支那人が認めてゐるやうに日本が國際的孤立に陷つてゐることは僕らも明かに認めるのであるが、强國に凭れて惰けてゐるよりは、孤立して緊張することが男らしいといふばかりでなく、却つて國家が興隆する原因となる。國民が一致して邦が亡びた例はない。日本のこの意氣を買はないか。

支那には資源が埋藏されてあるが日本には剛毅の精神の埋藏量が無限であつて、非常時には土を割つて堀起する。國難を笑つて歡迎する。この國が一つ、東洋にあるのはアジア人の誇りではあるまいか。

さらに振返つて米國に遺憾の意を表したい。

米國自身はそんな積りではなかつたであらうが、いま國際聯盟はそれ自身の力で日本を抑へることができないから米國を煽揚して反日に向けしめ、米國をして國際暴君たらしめやうとしてゐる。米國は支那の友人をもつて自任してゐるが、その動向は支那の友人としてゞは無く、支那國民を毒する軍閥の友人となつてゐる。國內では挑戰的平和論者——彼らの平和論は却つて衝突を激化せしめる——が羽振りを利かせてゐるが、彼ら——學者と、それに煽動される無智な人々——の空論が東洋から延いて世界的禍亂を惹起すやうになつても、彼らは責任を負ふだけの力はなく、その責任は全米國人に轉嫁されるであらうことである。

その九　貧乏と盜賊と戰爭

A

維新後といへども日本は傳統的に農業國であつた、瘠せた耕地の上には小作、自作農、地主といつた複雜な存在はあつたが、金融資本、不在地主がまだ兼并の毒を散布してゐなかつたから割合に平和なものであつた。

工業副産物は主として自家の消費に充てられ剰餘があつた場合に限つて他の部落に賣られることはあつてもそれは極めて僅かのものであつた。生産物は必需品が主たるものであつて贅澤品を大量生産によつて國内に氾濫せしめやうといふ考へは少しもなかつた、たゞ何かなしに原始狀態から離れ難く、人のための土、土のための人、土と人とは不可離の關係をもつて、瑞穗といふ釘で人間は地上に打ちつけられてゐた。

明治の末期から農家の副業を奪つて工業を專門とする小機械工場が現はれ始め大正を經て昭和に到り、日本を工業國に變化させてしまつた。

誰云ふとなく工業立國に向つて聲を揃へた、日本は突進した。一人として悲觀するものはなく、日清、日露の二つの戰爭は勇ましく戰はれた、しかも勝利をもつて終つた。**日本は土を離れて機械に移つた。**

日本は前進するのみ、樂觀でひた推しに推してきた、悲觀は國論の一致を妨げるものとして又た國民の義務として遠慮せねばならなかつた。

併し造化は日本を惠んではゐなかつた、鐵がない、石油がない、原料がない。人口は飽和點を超えて張り切つたから苦みは年一年と加重して最高潮點に上つて行く。交通線は朝鮮からアジア大陸へ、そこに石炭と鐵と食料とを。樺太に石油、木材を。マレーに錫といつたやうに張り渡されて、どの一線が切れても血液は順環しないから、手に餘る航海權を把握しなければならなくなつた。

農業國には敵は無くとも工業國になれば市場の爭奪から敵に遭遇する。今では四面敵に圍

されて軍艦で取巻き高射砲に裝彈して置かなければ眠れないほど、周圍に不用心な商敵を持つに到つた。商敵とは文字通りに解釋すれば「商賣がたき」であるが、そのあとには軍艦が附着して何時でも砲彈を打込むといふ油斷も隙もあつた商人ではない。貿易額と軍艦のトン數とは有機的に相關聯してゐるではないか。考へてみれば平和の商戰といふものは恐ろしいものである。

事態が更に惡化して**經濟封鎖となれば經濟學說は却つて說明し易くなる。**外國から金を備つてくることもできないから孤立經濟になつて國家の權力が物資だけを統制して貨幣が不用になること觀念論者の注文通りだ。

B

僕らの理想を云はしむれば——世界の科學を人間に隷屬せしめ、機械を人類に奉仕せしめるやうに社會を再組織して、各人各國が個々の利益を棄てゝ國際的機能に融け入つて、今日の對立觀念を棄てねばならない——さうすればこゝに始めて根本から平和は生れるのである

が、それは夢想であつて現實ではない、そんなことはインドあたりの哲人をして語らしめよだ、そんなことを語つてゐるうちに、強國はその國を屬領にしてくれるのだ。僕らは抗爭狀態をます〱尖銳化しつゝ生きて行かねばならぬ情けない環境の中に投ぜられた、僕らは空氣を嚙んで生活してゐられないから**國民が總括的繁榮に浴するまで踏ん張らねばならぬ。**

農業から工業國化したのは日本だけではない、支那もソビエートもその他の小國も漸次に工業國化しつゝあるから工業輸入品の賣れ方が東洋では鈍くなり、國際分業の組織は急激に變化し、古典的な貨幣制度は新路に乘り入れ難く價値計算基準であつた爲替相場は投機的に上下に翻弄され、各國は關稅高障壁の中に經濟的アヘンであるインフレーションを競ひ、それで足らずして金輸出を禁止した、これは金融危機に對する最後通牒の強き意味を持つたものである。

日淸戰爭、日露戰爭、歐洲大戰には戰爭稼ぎの暴利商人が簇生した、そんな俄か成金が今では殿樣と私稱して贅澤な生活をやつてゐる。あの時に味を占めて軍器賣込み商人と結托して戰爭熱を煽る奸徒も少くないやうだが、そんなものに乘ぜられたら國民は馬鹿をみるので

ある。憐むべし彼らは近代戰爭の本體を知らないためのあの盲動だ。

近代戰爭においては國內全部の生活形態が更改されて國家管理が經濟界を支配して奸商が私利を稼ぐ餘地なからしめるから、彼らの望んでゐるやうな不統制の隙につけ込む暴利は存在しないのである。利益のないのを知つて戰爭を叫ぶものが眞個の愛國者である。

今日のやうに推詰められて尙ほ平和を唱へてゐるものは爭鬪責務の一寸のがれだ。

G

普佛、日淸、希土、米西、日露、歐洲戰爭といつたやうに斷續的にはなつてゐるが、その精神は一貫した連鎖である。父兄を失つた子弟、子弟を失つた父兄の慟哭の聲は昔から今まで絕へたことはなく、特に日本に關しては、國土のどこを掘つても血の滲んでゐないところはない。

西洋文明は絕へず日本を震撼させて一日の偸安を許さない、航海術の發達は西から東へ巨波を送つた、これが加速度に戰爭運動を導いた。それに續いて機械文化は汽車、火藥、戰車

軍裝具等を余力のある國民の手に委ねて、その考へ次第で何時でも戰爭を起すだけの能力を與へた。

文明國民の手には更に潛水艦と航空機とが渡されて、戰爭の誘惑は水中、地上、空中に、經に緯に網目のやうに、國民の脚に手に糸を絡みつけた。

戰爭は政治上又は軍事上の理由から起つたにしてもその根柢原則は一括して經濟的原因に歸納することができる。

戰爭の目的となつた地帶は必らず經濟的に價値の多いところであつた。沙漠を占領するものがないやうに豐腴な地域に向つて眼が注がれ、占領した價値を擁護するためには、そこに向つて延長される本國の威力は、莫大な軍費の上に建つ。

貿易のあるところには葛藤が附き物である、葛藤は戰爭の母胎で、政治にも戰爭を孕んでゐる、戰爭なき世界を求めることは政治と貿易との無き世界を求めることであるが、文化は政治と貿易となしには構成されない。今、機械は貿易、政治の利害を大ならしめた。この利害が衝突するところが戰爭——しかも大規模の戰爭となる。

戰爭は活き物である。平和主義者が自分の主義を證明するに足る理論を書物の中で捜す時は容易に抽出されるが、それは死んだ物である。死んだ人が書いた死んだ理論をもつて戰爭を定義付けやうとする。

D

日本のやうな孤島は國粋主義が巣をくふに適するところである、その純粋な國民性を永久に維持して不純な混合から退避するために國境に柵をつくることは必らずしも惡いとはいはないが、それは軍事上に便するであらうが經濟生活の中に國際的思想を取入れるには不便である。

國家と國家との抗爭を裁くものに國際裁判所もあり聯盟會議もある、立派な法規もあるがそれは**合法的の陷穽である**。聯盟は外交上の革命的變化を齎らせた。日本對支那の抗爭に、支那が聯盟の蔭に隱れたら「日本」對「支那の主人聯盟」の抗爭となり、米國の袖に縋つたら「日本」對「支那のパトロン米國」との抗爭となり、又は「日本」對「支那の主人聯盟及

び支那のパトロン米國」との抗爭となり、非常に苛酷な性質をもつて壓迫が單一國家の上に加へられる。これを稱して世界的制裁と云ひ得べくんば、世の中に繼子ほど無告なものはない。

どの國も平和を高調しながら進むが、出合ひがしらに戰ふ、零と零との合計が一となる。どれが眞理であるかといへば、どれも眞理である。各國ともに眞理を異にして、都合の惡い眞理に出逢ふ時は弱いものは顔を背けて通り、強いものは蹴ちらして通る。

平和をかざして正面から日本の相手になる米國は結局は氣の毒なものだ、併し反日主義は米國全體の意見ではなくして共和黨だけ――民主黨は反對だから――の意見であらう。もつ**と東洋觀念を澹泊にすることができないものか**と第三者からは思はれる。九國條約を締結した時と今とは事情が異つて主たる政權の存在がないから日本の行動は止むことを得ないのであるが、米國に云はすれば條約調印の當時に支那が發展行程の中には今日のやうな混亂があるべきものと見越してあつたのだと、そんなことを承認する寛容が支那を付けあがらせて支那を衰亡に導く、**支那を驕慢にさせたのは米國に責任がある。**

ソビエートは世界觀が超越してゐる、戰爭はインチキ・スポーツだから戰爭の興味なら見物席から味へる、戰爭は資本主義の熟練工に任せて置けばいゝのだ、と。寒くて大きい「氷の大地主」は戰爭を達觀する。

E

國內の經濟が完全に國民を養ふに足つたならば富の公平な分配も期圖し得られ又た社會主義制度を實行する上においてロシアのやうな便宜もあるが、**それがどうしてもできない國が二つ、西の英國、東の日本である。**

日本だけに就いて云へば、今さら僕らの生活水準を支那、印度まで押下げることもできず、更に歐米先進國まで向上させたい望みを抱く以上は退嬰的になつて金融攻撃、貿易侵略を消極的に防いでゐるばかりでは濟まない。必らず白人の組んだスクラムを突破して進出せねばならぬ。膨脹して止まざる人口を國內に緊縛して高賃銀を維持することは不可能なことである、經濟的理法は武力準備と並行せしめねばならぬ。

F

人類は平和な理想世界を建設しやうとして何度も機會を捕捉し損ねた、無理に平和會議を唱へ出しても、世界は鬪資を失つても鬪志に滿ちて、大勢は眞の平和境を造るに適せずして理想の逆コースに向つてゐる。

生產機關の共有化も唱へられて又た消えた、經濟だけが競爭をやめよといつても無理である。人間は優勝劣敗に興味を持つこと競馬場を見たらわかることで、今日の文化國では競爭に落伍したものだけが失望的に所有の社會化を鳴くが、意氣あるものは勤勞のあるところに利潤を求め、前走する人を乘越えて進むことを考へる、その氣慨がなくては社會はだれる。**利潤行爲のない社會には元氣がない**、破產して復權の見込みのない舊家の主人の氣持ちはそんな消沈したものだらうと思ふ、文化を持ち希望に燃えてゐる國民は時間を惜んでよく働き、よく學び、よく遊ぶが、未開國で生產機能の發達してゐない國民は遊惰で、だらしがない、働いても働きばえがないからでもある。

大きなビルヂングが建つ、その中に食堂が附設される、新らしくて安いから小料理店のお客をトロールするが、その廉いのは社會公共のためではなく、社會大衆に榮養を供給する奉仕が目的ではなくして、利益が目的である。利益が無いとみたら卽時に閉鎖するが誰れだつて食堂經營が一般人の飢餓を助けるための行爲と考へるものはない。個人的利益が目的でない公園でもベンチは早いもの勝ちに坐を占める、櫻爛漫たる上野、淺草をみるがいゝ、公園の最も眺めのいゝベンチを獨占する心は、やがて土地兼併の心であり、それを引き伸ばすと勞働組合の平黨員より地方委員となり、中央委員となり、つひに執行委員長の椅子を狙ふ心となる。運動場でランニングの第一着を贏ち得たい心を押し廣めると、屍山血河を越えて敵壘に先登したい心となる。

公園は利潤が目的ではなくとも、競爭心がベンチに現はれる。**ベンチが明いてゐる時は氷雨ふる冬であつて、そこに花はない。**利潤を求めない時は、たゞ食つて行くだけのソビエート式で、所有慾は解消するが、それは人間の眞の心であらうか？　人間の骨を拔いて鰻とし鰻から動物質の脂を拔いて山の芋とするものである。競爭は山の芋に脂を注ぎ込み、鰻に硬骨を加へる、利潤爭奪は文化社會の裏に飛躍する活力素である。

G

人類は戰爭によつて餅のやうに引き千切られ、石のやうに碎かれ、飴のやうに引き伸ばされ、結局は灰のやうに骨葉微塵に吹き飛ばされ、生き殘つたものは疲弊窮乏に泣いて平和の夢を未來に描きつゝ倘ほ年々に軍事費として租税を捧げつゝ次の戰爭の準備に充てゝゐる。戰爭、盜賊、貧乏の三幅對は文化部屋の床に飾られる。石川五右衛門は盜賊であつたから視野は盜賊の範圍を離れなかつた、彼れは盜賊の種は盡きまじと詠じたが、貧乏と戰爭の種は盡きまじと豫言するだけの遠大な視野を持つてゐなかつた。カルテンは社會は戰爭そのものだと喝破した。

戰爭が人間であらうか、人間が戰爭であらうか、盜賊、貧乏が人間の當り前の姿であらうか。僕らは感情の單一體から理性の綜合性にまで進んだならば或は平和論者の夢に納寄せすることもあらう。經濟の絶望から起る生活の變化が爭鬪觀念に再建を強いることがあつた

ら、これも亦た戰爭の機會を幾分か減少することもあらう。財閥、大企業家、御用商人等が戰時に不當利得を獲得する機會を持てないやうに國家が統制するのも一法であらう。教育、宗教、道德が戰爭を光榮あるものと指導する代りに恥づべき行爲であるとして爭鬪氣分を和げることも一法であらう、戰爭に懲りるところまで世界人を血の風呂につけてしまつたなら得心するであらう。いづれにしても他國がそれを行はないで一國だけが、そんな方法を取つたら戰敗よりも辛い目に逢はされるであらう。

戰爭と貧乏と盜賊とは同時に根絶せらるべきもので、**三つのうちの一つだけを滅ずることはできない**、なぜならば、どれも同じ經濟組織から發生したものである。經濟組織が變革されるまでは平和を唱へる時期ではない、その時期の熟するのは次の世紀の中葉ではあるまいか、**いづれにしても僕らの時代ではない。**

H

戰爭の原因は人口の過剩と機械の發達とが主たるものであるから日本においては要因が極めて濃厚である、上古において戰爭が無かつたのは道德的抑制によつたものではなくして、人口が稀少で戰爭の必要がなかつたゝめであるが、近代において僕ら日本人が戰爭せねばならぬ機會の增加したのは人口と機械に激化されたものである。

人口の增加が彌榮えに榮える國家の擴大性を伴はなければ、人口の增加が彌衰へに衰へ行く國家の貧困性に拍車をかける、**こゝが思案の追ひ分けだ。**積極進取の外に誰れが考へたつて思案はあるまい、**貨幣なしの國家會計制度といつた元氣のないことは日本が力盡きて國際ルンペンに零落してから後にゆつくり考へても遲くはない。**

いま僕らは急坂の中腹にある、貧乏線に降りるのは何でもない、破れた毛布にくるまつて轉がつたらドン底に落ちるのに間違ひのない直路一線だ、だが繁榮の頂上に登ることが苦勞なのである。

どこまでも強氣で有利な結論を追ひ詰めて行かねばならぬ、日本の不利な結果は僕らの結論ではない。日本が滿蒙へ一歩踏み出せば數國が集つて事毎に日本を阻礙する、滿洲の藪をつゝいたら米國が出る、ソビエートもフランスもイギリスも出る、滿洲では何と云つても一

人舞臺だが上海ではさうは行かない。

　東洋に特殊の勢力を持つイギリスは根ざしが古くして且つ深い、イギリスを除外しては米國が獨りあせつても經濟封鎖をすることが出來ない、イギリスは米國の外交方針に追隨するといふものゝ東洋に關する限りは獨自の立場が米國より一日の長がある。

　十三對一の調子が續くやうでは一國對一國の武裝では心許ない、少くともアングロサクソンを相手とするだけの計畫が望ましく、不戰條約を深く掘り下げたら、その根には戰爭動機が絡みついてゐるから油斷がならない。

　資源の缺乏に惱んでゐることは惡いやうだが、その實は日本に取つて惡いことではない、それは日本が進歩充實した證明である。日本が昔ながらの村落經濟で世界の風潮に乘らなかつたら今日の苦みは無かつたであらう、今日の苦みは取りも直さず發展膨脹した結果である

―

動物學者の緻密な研究を聽いてゐると狸と狐との區別は分らなくなつてくる、だが、幸に

して動物學者でない僕らには化けない限りは明かに區別ができる、白人たちは滿蒙と支那との地理的民族的區別が十分でないが狸と貉と、狼と山犬、蚤と虱と蛇と蝮とさへ日本人にははつきりわかつてゐる。完全な國家と擬制國家との區別も支那の隣人はよく見わけることができる。

　假りに滿蒙が支那の領土であつたにしても、それは切斷せねばならぬ腐りかけた片脚であつた。

　九國條約では國家と認めても文明の列に並ぶ能はざる國家は安寧秩序の紊亂者である。袒ぎで尻まくりをして公道を濶歩しながら喧嘩をするから僕らは人道の名において呼びとめて一たん裸にして着物を着なほさせやうと思ふ、あの不行儀は許さるべきことではない。

　亂暴の基本的自信は九ケ國條約であつて、これのある限り日本が支那に對して手の付けやうがないと誤信してゐるのであるが、顏の眞中に膏藥を貼つて、これは梅毒患者であつて**自己腐敗をする危險な人物であるといふ印が九ケ國條約である、**支那が統一國家であつたら、あんな取極めをする必要はあるまい、あれの存在は支那に取つては國恥であるから人前に出

せない證文である。それを聖物のやうに珍重して、自分の造つた金屏風を引廻したやうにその蔭にかくれてお正月氣分になつてゐるのはお目出たいものだ。

僕らは東洋の治安が支那の地辷べりによつて脅かされてゐるのに大きな迷惑を感じてゐるのである。

どの國も條約が纏ひついて身動きもならぬほどになつてゐるが、精神のない條文は餘り効果的なものではない。米國は不戰條約からモンロー主義を除外してゐる、英國も同じ主張で英國の利益を構成してゐる地域に効力を拔いてしまつたが、英國のやうな廣汎な地域が條約の外に喰み出したら世界は不戰條約の及ばないところが多くなる、その上に各國が各自の事情から勝手な解釋を下してゐるから尚更ら効果は薄いものとなつてゐる。

日本にも、**もつと早くアジア・モンロー・ドクトリンがあつたら**今日のやうな混雜は無かつたであらうし、外交官は國際會議で申譯ばかりしてゐないでも好かつただらうし、軍人も外國に氣兼ねしながら滿蒙で戰はなくても好かつたであらう。

滿洲の匪賊にさへ二萬の軍人を要した、大陸軍には交通、工場、港灣、金融等の後詰めが

なかつたら何の働きもできない、軍事には後方に大仕掛けな計畫を伴ふ。

ソビエートの計畫だつて軍事がその中核を成して産業はこれに附隨する軍主工從主義である。フランスが年額七百萬フランの損失覺悟でサワラ沙漠に横斷鐵道を敷き、本國から五十時間で北アフリカに到達し得られる大計畫だつて恐怖からきた仕事であつて、戰爭の豫想から植民地の防衞を有利にし黑人軍の動員に便するためである、それが目的であつて世界人は交通の利に浴するのは副効果である。それだけの費用を社會事業に投じないで、何時起るか知れない又た起らないかも知れない戰爭に投ずるのは、それほど戰爭が重大視されてゐるのである。

併し**人口の増加しない國に取つては戰爭は有利なものではない**、急激な人口増加に惱まされてゐる國に在つては算盤の彈き方は自ら異ならざるを得ない。時としては戰敗が必然的な形勢の下にも悲壯な戰鬪行爲を開始せねばならぬ場合が生ずる、このまゝで餓死するよりは戰場の花と散らうとする負けても餘儀なき事態もある。

暴力は戰爭だけではない、政治も多數による暴力であり、外交も無論暴力の後援を要する

經濟も資力の暴行であり、經濟封鎖に到つては戰爭以上の暴戾なものである。

戰爭は敵國を不具にすることを目的とする、有史以來の戰爭大取引は歐洲大戰後におけるドイツ賠償金であつた。あそこまで行き過ぎては勝つても駄目だ、何となればドイツの支拂不能は無理ではないからである。賠償額が過大に課せられて敗者を破產させ、息の根を絕やしてしまつては面白くない。賢いものは敵を生かしておいて合法的に恐喝取財をやるのだ。

軍人が職業になると同時に戰爭も經濟化する、高度に工業化した國家は急激に貨幣購買力が變動して好況期間が短く不景氣は永く續き、國民は軍事費の負擔に堪へられなくなる。國家はその尨大な軍事費を稼ぐために、その收入を戰爭に求めやうとする。求められた國は利權又は領土を割讓してこれに應ずるか又は決然として起つて大砲をもつてこれに返答せねばならぬ。

その十　滿洲新國家

A

歷史家は僕たちに歷史を敎へてくれた、つひでに日本固有の道義をも注ぎ込んでくれた。それを要約すれば日本はとてもいゝ國だ、僕たちは世界無比の祖先を持つてゐる、對外戰爭には負けたことのない尙武國で、國際的に經濟的封鎖をやられても伊勢の神風が吹き拂つてくれるであらうし、山水は秀麗で瑞穗は原野に充ち、義俠が國民の指導精神となり、武士道がげつぷの出るほど胸に詰つて、佞邪を憎み、國體は死をもつて擁護せられる――と、これは成るほどいゝ國だ。

世が亂れると忠臣義士を立ちあがらせ、それに節婦義僕をあしらつて史上に燦然たる光彩を放たしめること、時代祭りの行列が徐々に神殿に近づいて行くやうに思はれるから僕らは

無批判に、結構な傳統を有する國家に生れた光榮を感謝するとしやう。

歴史家の啼き聲は思想善導業者のそれによく似て、くど〳〵と辛抱強く說明するから根氣に負けて僕らは說服されやう。それに反抗するだけの證據も持ち合はさないし又たそんなものを搜索してゐる暇がないから止むを得ざる同意であるが、それもいゝ、だが、水源からこゝまでの經の流域は明かに承知したが、橫から波打つ現實の生活苦は吾々に解釋のできない史外の問題である。

殺したり殺されたりした鬪爭史と、上つたり下つたりした貨幣史とが交互に悲嘆を語つてゐる。歐洲大戰の人類殺傷史が終つて新たに混亂した貨幣混亂史が登場した。こんな時には大富豪と大貧乏とが簇生して社會は不正に滿ち、却つて**殺戮の男らしさが慕はれる。**

優れた財政學者が公費で養はれてゐる、その後に飜譯財政家も輸入智識をもつて控へてゐる、そんなものが陰氣なことばかり提唱するから僕たちは困惑的な理窟に詰められてゐる。左に引く學說と右に引く理想と、前へ、後へ引く力が錯綜して日本をして進退に迷はしめてゐる。

學者といふものは易占家と同じく過去を說くに詳かであつても豫見は見事に外づれてゐた氣の毒なほど外づれてゐた。**外交家の豫見は、もつと大巾に外づれてゐた。**平和なんかそんなもの〻くるのを、いつまで氣長く待望してゐるのか。

前世紀に起つた戰爭の歷史的經過、それに續いた今世紀も同じことを繰返へしてゐる、螺旋形に繰返へしてゐるから、少しづゝ締めつけて、だん〳〵尖銳的になるから、前年よりも加速度的に遂行力を高め、擴大的、强化的となつて、狗の咬み合ひが狼の搏擊に變つたのであるから形態は一層惡くなりつゝある。

歐洲戰爭は、その當初に聲明されたやうに戰爭を根絕するための戰爭として局を結ばなかつた、復讐の志ある者を今に重石で押へてゐる戰場で批准された休戰に過ぎない。

こんな不安狀態が經濟的にも危險を增大し、戰爭の要因は細かく碎かれて世界の隅々にまで散布された、この破片が到るところで發達し、それが數多く集つて又た第二次大戰亂を捲き起す素礎をつくつてゐる。

ラテン・アメリカを帝國主義の串で、おでんのやうに突き通した米國の餘力は「厭ふべき

平和」を飛行機の脅威で東洋に突きつけてゐる。

B

世界における最も興味あり、かつ必然性を持つを戰爭——金融戰、貿易戰及び武力戰——は英米二國の間に釀されて、僕たちは安全な對岸からそれを見物するであらうと思つてゐたが、いつの間にやらこの大きな渦が英國の戰はざる敗北によつて消えてしまつた。かくてフランスの自由になる國際聯盟と米國の操る軍縮會議の二つによつて戰爭は伸縮自在のものとなつた。

アフリカにおける英伊、地中海における伊佛、近東における英佛といつたやうに渦も小さくなつてきた時に、突として支那の上に大きな戰亂の渦巻が現はれた。

白人は日本が起した事件とばかり思ひ込んでゐるが、日本にしては支那から買はれた喧嘩であつた。併し白人は被害者と加害者とを取りちがへてゐる、何にしても資本主義の不當利得を追ふ列國民によつて戰爭の指標は期せずして絶東に向けられた。

彼らは歐洲大戰に懲りて、恐怖と戰慄とに打たれながら誤つた國際觀念を煽られ、ふるへながら東洋の戰場に物言ひをつけやうとする。

C

個々の資本家がだん〱大きく塊まつて營利合同人格（トラスト、カルテル、組合）となつて攻擊力を強め、今では政治家の力でそれを統御することのできない程、のさばつてしまつて、社會機構に重大な變化を齎らしつゝある。國民はその弊に堪へかねて、むしろその強化した迫力を外國に向けしめることを希望する。なぜならば**そんな無法な力を國内に置かれたら國民の血は乾いてしまふ**からである。自國では高關稅——門戸閉鎖であり支那では門戸解放——機會均等が、その現はれである。

實に今、手取り早く世界の覇權を握る方法は戰爭の外にない。

いま戰爭すべき理由は澤山にある、さらにソビエート國家の年次計畫が世界的經濟混亂に絡みついて、**資本主義國家の同志打ちに複雜性を加へてゐる。**

ソビエートの理想が紙上の計畫通りに實現するとせば、それこそ帝國主義資本主義の破滅である、資本主義國家は相抗爭しながら、ソビエートの横から攻めてくる勢に脅かされてゐる。

ソビエートは支那に何を吹き込んでゐるか、勞農大衆——その實は勞働者だけで農民は與つてゐないが——の獨裁、借金踏倒し、土豪劣紳の驅除、土地分配——こんな好餌をもつて支那を釣つた。

支那の國土の上における列强の角逐爭奪、軍閥同志の相剋、立體的の階級爭鬪、そんなどさくさ混れに××の機會を攫めと、てうどロシアが歐洲大戰で國内空虚の時に舊國家を顚覆させた．あの仕方を學べと。

D

日本が滿蒙に占據したらソビエートが默つてはゐまい、こゝに獨立國が出現することを認容するはずはない。ソビエートが默つてゐても米國が出て九國條約の權威にかけても何とか

するであらう。米國とソビエートが默つてゐても平和規約が嚴として存在してゐるから面目にかけても國際聯盟が片をつけてくれる。或はこの三つが合流して日本を叩きつけるから、日本は世界の憤怒を一手に引受けて奉天城門の上で割腹して相果てる、と、そんな錯誤に陷るのは馬鹿ではできない思ひつきで、智惠があつたからそんな錯誤をしたものである。國際**聯盟が力もない割に大きな理想を擴げた**ものだから、支那はいゝ氣になつてその中に包まれて、日本恐るゝに足らずとして、排日を始めたものである。これは賢い、但し薄智惠から出た生兵法であつた、もつと智惠があつたら他人の何やらで角力は取らないはずである。

この角力取りは體ばかり大きくて全身に毒が廻つてゐる、毒とは何かといへば私腹を肥やすことである。軍需品の不正を承認して不發彈に帳簿面だけの支出をしたりするから、戰ひとなつても武庫には撃てない砲彈が山積してゐるのである。

こんな精神が全國に瀰蔓して、それをチユンパオ（中飽）といつて怪まない、貴人に面會するにさへ取次人に賄賂を贈る、これをメンチエン（門錢）といふ、内部における腐敗が外に現はれて外交の不信不義となる。

僕らは氣の毒に思ふが憎む氣になれない、僕らが今唱へてゐる對支硬論は隣國、人類にも亦た吾が國に取つても不幸な「攻勢防禦」であるが、十年を出でないうちに、こんな議論が忘れられてゐる時代に達しるであらうならばアジア人類の總ての幸福である、**對支硬論は大局安定に至るまでの一小過程であつて、こんなことが永久に子孫にまで續いたら畜生道である。**

支那に責任感がないことに原因して不戰條約に苦い試錬を嘗めさせられた。國際裁判所はあつても法律問題ではなくして政治問題であるがゆゑに手が付けられない。國際ボイコットは日本を威嚇するに足らぬ。米國にしても日本を仰へ切るだけの自信はあるまい、そんな無用の勞力を費す餘裕があるなら、なぜ世界市場の出入を解放して日本をして平和の仕事に戮力して働かしめないか、日本だけに風當りが強くとも倒れなかつたら吹き損ではないか。

E

米國の積極的重壓が日本を挑爭的ならしめ、それと同じく支那の消極的反抗が日本の癌に

障へしめる。上から押へても下から突きあげてもその中間に在るものは必然的に動揺を起す

支那は强制による條約の無効を主張するが、**現存の國際條約の中で双方の心からの承知づくて結ばれた神聖な條約はどれてある、**一時の便宜によつたもの、力の威壓によつたもの、賄賂で買收されたもの、戰敗の淸算に成つたもの、そんな不合理なものが大部分を占めてゐるが、批准を經たものは總て合法的根據を持つから仕方がない。

條約の破棄は餘り困難なことではない、力があつたらいつでもできる、理由が無かつたら捏造すればいゝのだ、無茶をする考へなら條約など鼻紙にもならぬ。向ふが破つたからといつて、こちらからも新論據を持ち出してゐては議論倒れで、水の掛合ひは美服を着たものが損である、**裸が得である。**

こんな擬制國家に向つて外交的基準をもつて臨んでゐる三十年の隱忍さは驚くべき辛抱の强さであつた。そのうちに首府が代る、首府が代るとともに主權も宿換へする、掛乞ひが困る。

支那政府に對して教訓的に、有効的に、懲戒的に**機宜の措置を取れる國は日本以外のどこ**

であるか、日支事變をかく大袈裟にしたのは日本の忍耐が度を越したからであつた。

日本を押へて滿蒙事變を曖昧にするとともに、日本を徹退せしめない程度の干渉が列國に取つて必要なのである。なぜならば資本主義列强は市場として支那人の機嫌を取結ぶ必要があると同時に、ソビエートの赤流を堰かしめるため日本の陸軍を働かしめる必要もある。これは消德行動ではなくて商行爲である。そこで列强は日本の條約權は認めるが武力の發動は認めないといふ日本人には譯のわからぬ抗議となつた。

滿洲が日本の植民地化するのは列强の認めないところであるといふが、滿洲を棄てゝ置けばソビエートの赤い思想の南下は阻止できないではないか、このまゝに放置すれば、そこから新らしい抵抗力が生じて共産主義を吸引するからである。

右すればソビエートと衝突し左すれば米國と突き當り、默つて直立してゐたら支那から擽ぐられる。日本を滿洲から手を引かせた後に支那の友人として現はれるものは、云ふまでもなくソビエートである。支那政府は日本を滿洲から驅逐しロシアをも排除することをもつて方針としてゐるやうだが、空氣は空間に滿ちやうとする。双方とも押しのけて滿洲を眞空の

存在とするか、それは馬賊を喜ばすだけのことである。

米國は日本の占據した土地を支那に還へせといふ、日本は返へすといふ、かへせ、返へす これでは爭ひのできるはずはないのであるが、そこに爭ひの生ずるのが妙である。

もし列强が戰爭**によつて獲得した領土を一齊に還元したら面白い地圖ができる。**贊成だ。英國も米國も佛國も全部屬領地を還へすがいい、さうすれば世界は住みよくなつて日本は滿洲のやうな寒いところに喰さがる必要はない。

滿洲を俎上にそんな議論の鬪はされてゐるやうに、そこに大滿洲國が生れた、米國はそれを認めぬといふ、併し眼が有つたらあんな大きなものが認められぬはずはない、たゞ條約的に認めないといふのだ、**それなら强いて認めてもらう必要もあるまい。**

滿蒙が次に來るべき根本的解決の責任を日本に負はせて、どんなにして自由國を育てあげるかの手並を岡目八目で見物して批評してゐる方が列强に取つて賢明な方法ではなからうか

台灣の統治にさへ完成までに八年もかゝつた、大滿洲國の確立は半世紀を要する大仕事である、匪賊の剿討を外にして内治外交上の問題は大變なものである、まだ御馳走が齊はないうちから招待しないお客人が食指を動かして出かけるのだから混雜は一方でない。

試みに米國だけの過去經過を書いてみやう、日露戰役でロシアがまだ手を引かないうちから滿鐵買收問題を持ちかけた、それが成功しなかつたため滿洲鐵道中立を提案し、それから滿洲銀行の計畫となつた、その時分から米國はドルを手先に使つてゐたのであつたが、注意すべきはその當時の**米國は債權國ではなくして借金に惱んでゐた時**であつた。

滿洲の財制改革案と借款問題、それから四國借款團、日本の對支廿一ヶ條に對する警告、石井ランシング協定の締結、(間もなくそれは廢棄)、對支借款團の組織(日本の既得優先權の委讓)、華府會議における支那の援助(日本の權益讓步の强要)、九ヶ國條約、日英同盟の廢棄在支宣敎師の排日挑發、機會あるごとに支那に同情の押賣り、滿洲に本國政府の後援ある銀行會社の支店進出政策――蛇は一たん狙つた蛙を思ひ切るものではない。

列國が支那問題、特に滿蒙問題に認識不足だと思はれる點もあるが、列國は又た日本の認

識が不十分で、近いところは却つて足許が暗いといふかも知れない。僕をしていはしむれば列國も日本も認識十分であるが、國の利害關係が違へば觀點も從つて異らざるを得ない。日本は共存意識に據る行動圏を、どこまでも保存せねばならぬ。

G

過重な負擔から苦しめられてゐた滿蒙住民は自分の敵である軍閥が、**偶然の出來事から日本の手で取り拂はれて自然革命に逢つた。**

自ら發憤して革命を遂げたのではなくして他力から轉げ込んだ幸福であるがゆゑに、滿蒙自由國はソビエートのやうな熱がなく、總てにおいてパッシーヴである、すべての革命政府は青年が中樞となつてゐるに反して、この國は老人を引つぱり出して政治をやらせてゐるから積極的な、新國家に似合はしからぬのろ〳〵とした執政ぶりである。

日本は世話のやけることである。

文化侵入に備へるだけの經濟的陣立も立てなほさねばならぬ、日本にしても一港主義を固

執するか、葫蘆島に大連の繁榮を分割するか、そんなことも考へられることである。

滿蒙に新國家がまだ孵化しないうちから貨幣本位論が始まつた、金制が、銀制か、金銀兩建か、むろん銀本位制でなくては保守國民を混亂させるであらう、つひに銀本制を採ることゝなつたが、銀本位を主張した日本の經濟學者は何といつたか、「傳統的貨幣觀念を破壞するから暫く銀本位のまゝにして追つて金本位として日本と共通にするがいゝ」と、僕をして云はしむればさうではない。銀本位制はそんな目前の苟且主義ではいけない、新自由國を銀本位制として日本も追つて銀本位にするも面白い。さうすれば支那も印度も埃及も追隨するであらう、ドイツも誘ふ、イタリーにも勸める、**こんな國を打つて貨幣連合をつくつて、米佛の黄金の山に對抗するのだ。**

貨幣は必ずしも金に限らぬ、何でもいゝのだ、金に執着するから經濟に行詰る。

いま金は一方に偏倚して購買力を失ひつゝある、僕らは意地づくでも滿蒙國家を銀色燦爛たるものにしたいと思ふ。

H

歐洲大戰は生に輝く系列と、死に衰へ行く系列とに列國を仕分けた、換言すればまだ鬪ふ力のある國と、もう戰ふだけの生氣のない國とに分類したのである。國家の等級は文化の度よりも武備の差で測定する方が簡單で正確なものとなつた。文化のあるところには武備があるとは斷定し難いが武備のあるところには必然的に文化の活動があつて、系統をつくる經濟學理の逆進説を力づける現實である。

I

國民の福祉も計算の基礎を誤つてゐる、社會人が生の安定を享有する程度を測らずして國家の輸出入總額の數字をもつて統計的に片付けてしまふ、まして生產を基礎として國富を計算するの誤りたることはいふ迄もない。この誤謬は資本主義國家において肯定されるやうに共產主義國家においても眞理である。

國家が農業經濟で自給自足してゐる間は戰爭的には無難であるが、それが產業經濟で自給自足を圖るやうになつて戰爭が不可避となつた。原始的家族的の農業本位で組織された未開國家が、爭鬪的不道德的の文明國家に推移する時に、國家相互間の對抗が激化され、利潤爭奪武力競爭の惡性角逐が文明國家を築きあげた、文明國家の礎石は不道德の塊である。

原始時代に恐るべきものは毒蛇猛獸であつたがそれは今では征服された。傳染病の毒菌、瘴癘さへも科學的に殆んど拂ひのけられた、山に盜なく海に賊なきに至つたのは文明の賜物である。

文明は小利を與へて大害を殘した、毒蛇猛獸その他の厭ふべきものよりも更に厭ふべき戰爭を持込んだ、文明史で一ばん僕らに馴染の深い局面は戰爭である、歷史は僕らに一個の間違ひのない結論を敎へてくれた――お前たちの生命には終焉まで戰爭が絡みついてゐる、と

戰爭も精密な構圖の上に行動する以上は勝利は每戰の理づめの創作である、戰爭は破壞が目的ではない、それは手段である。**目的は戰勝後の追擊に在る、**敵を追つ拂つたあとには戰勝の成果が殘る。

日米戰爭の起りさうで又た沙汰止みとなるのは、日本が勝つても追擊に移ることが困難であり。米國が勝つても日本をどこまで追ひ込み得るかが疑問であり、領土侵略は今日に在つて公然と行はれ難いが、それ以外に戰勝の費用を償ふものがないから米國は日本に勝つても追擊の妙味がない、ために慾張り國民も起ちさうで起たないで今日に及んでゐる。

米國と英國とは巨大な蚯が中斷されて別々に動いてゐるやうなものであるが、金融上の必要性から切つても切れないことになつて債權債務で二つが膠着するであらうと思ふ。もし世界大戰が起るとすれば二つのアングロサクソンは合體するものとせねばならぬ、武力鬪爭でこれに對抗するものはフランス及びその友邦を除いて見當らないが、思想で反抗するものはソビエートを中心にポーランド、ドイツを聯ねるであらう、その時は日本がキヤスチングボートを握るわけになるが、そんな旨いことはあるまい。

もし英米が日本を叩きつけようとすれば、日本には厚意を持たないが反アングロ心理をもつてソビエートは原料により、ドイツは技術により日本を聲援するかも知れない、フランスは好意的中立を守るであらうことは、英米聯合をして全捷せしめたならば歐洲本土は完全に

服屬せしめられるだけの勢力を彼れに與へるからである。
列國の離合集散は財閥の少數が國家を擔いで國民大衆の考へてゐるところと、まるでかけ離れた方面に運んでしまひ、**思ひがけない國を相手として戰はねばならぬことにならうと思ふ。**

ソビエートが不可侵同盟を結ばうと云ひ出しても國際的孤立の日本がこれを峻拒するのは××の氣に喰はない相手なるがゆゑである、その拒絶の理由としては、すでに不戰條約もあり國際聯盟もあるから無用の條約を結んで英米佛の注意を惹くを要しないといふのであるがその實はソビエートに近づくことが病毒を感染せられるやうに思ふことから生じた一種の心理である。

滿蒙が今日の狀態では他を顧みる暇もなく、ロシアを侵略するなどは、**先方から賴まれてもお斷りすべきもの**である。ソビエートを安神せしめ日本もともに北邊に休息することは必要であり、平和な條約は多きことも重複することも妨げとならぬ、不可侵條約で武力行使と思想宣傳との二つを封じたら好かりさうなものであるが日本の軍閥も財閥も外交官もソビエ

ートを何かなしに毛嫌ひしてゐる。

米國が日本をもつてソビエート南進の夜警とならしめてゐるのは米國の喰へないところだが、日本が自らソビエートの出口を封ずる石垣の役目をもつて任ずるのは白人資本家に對する馬鹿げた義理立てといふのだ。

米國には大きな動力がある、日本にも少々は動力がある、動力と動力とが接觸するところに戰爭の火花が散る。歐洲大戰前の英獨の關係に似たところもあるが日本をもつて戰前のドイツとするは當らぬ、第一に環境が違ふ、歐洲には支那といつたやうな巨大な國體に絕えざる內亂を包んでゐる國は無かつた。歐洲のは不必要で贅澤な戰爭であつたが、日本のはさうではない。武備が無かつたらアジアは白人の蹂躙に委さねばならぬからである。

ソビエートには動力が缺乏して原料と食料とがある、**日本と競爭すべき品種が少い**、從つて思想宣傳を遠慮するなら同盟國となつて有無相通する利便は多い。

日本の資本家と軍人とは無暗に赤化を恐れてゐるが、ソビエートにしても日本の白色恐怖を感じてゐるのだから、これは五分々々である。相引きにすればいゝのだ。

軍人生活者のその所説は專ら軍略の範圍を出ない、外交生活者は平和の辭令で實相を掩蔽して、いふところが直截でない。學者は實際に遠い純理に囚はれてゐる、經濟家は數字詰めで目前的である。どれも專門的で、それ〴〵傾聽者を持つてゐるが視野は綜合的でないために國家の大勢において正視を誤つたところがある。

財閥のソビエートを恐れてゐるのは譯がわかつてゐるが、××××が財閥の表情に附和して泣き顏するのは譯がわからぬ、よけいな「プロレタリヤの溜息よ！」

J

ソビエートが「永遠の勞働に恩惠を感ずるもの」であつたらそれでいゝではないか。**いまに思ひ知るよ、**動力で勞働が驅逐されるよ。日本人たち心配するな。勞農主義以上の過激なものがソビエートを見舞つて、彼らはあつと驚くよ。

「鐵の言葉」がわかる國人、ハンマーで打てば鐵が答へるさうだ、僕たちには**鐵の言葉**なんかは、ロシア語よりむづかしい、わかりつこはないのだ。併し**動力の合言葉はわかつてゐる**

よ、「いまに資本主義も國家社會主義も勞農主義も一と薙ぎに水平にして見せるからその時に吃驚してくれ！　**吃驚を期待せよ！**」とこれだ。

「鐵の言葉」は勞農主義國家の福音だが、ソビエートだけの獨占ではない、資本主義國家にも支那にも「鐵の聲」がある。

日露戰爭に日本軍が使つた砲彈全數百五萬發、**これが鐵の聲である**、歐洲大戰でソンムにおける一會戰に英佛軍が使つた砲彈だけで三千八百萬發、何と！　砲口から出る鐵の聲の悲壯な叫び。重き鐵量！

鐵の外に**黃金も物をいふ**、日露戰役で消費されたもの五十億圓、歐洲大戰では四千億ドル

鐵の聲、金の聲、ガソリンの聲、動力の聲、そんなものが戰爭を合奏する。

K

國情と國是とを異にし、運命的抗爭を持つ六十四國千三百五十人が參加討議する、驚くべき機構。持出された尨大な書類。どんな精力家だつてそれを讀むだけが終生の事業である、

多數の頭のエキスから果して僕らは何を期待していゝだらう。

日本だけの事情としては滿洲國を擁護するに足る陸軍、群島型を成せる海岸線を確保すべき海軍、その二つを繫ぐ空軍、それでいゝのだ。技術的數字は屬僚から提出する。それ以外には何もないのだ。これだけが主張できないやうな協定なら、罪を犯すより、**もつと大きな過失である。**

國際封鎖は戰爭でなく、宣戰せざる砲戰も戰爭ではない。**平和會議が始まつてから平和と戰爭との境界線が著るしく不鮮明になつた。**僕らから恐怖を取除いてくれる國際會議ではなくして恐怖で僕らを押へ付ける隣人愛であるが、日本が欣然として參加することは列國を喜ばせるには十分であらうが、自國民に取つては、それが喜ぶべきことか、どうか、そこに疑問符を付けて置かう。

日本の近所には妙な國が三つもあつて豫算も決算もない國やら、豫算はあつても幾らでも臨時支出のできる國やら、豫算をどうでも變更できる國やら、それが皆大國である。

平時においても鐵と金との戰爭準備はどこまでも延びて國境を越えて走る、どこまでも競

爭するが決勝點のないランニングは倒れたものを負けとせねばならぬ。

米國上院の解釋によれば自衞權の發動は他國の意見を徵する必要はないのであるから自國の解釋即合法である。決定權はそれを行使する國だけが持つてゐるのであるから、何の必要があつて騷々しい國際會議を招集するのか、さつぱり譯がわからぬ。

金と錢との準備ができて、今戰爭しようと思つたらそれが合法なのである、自衞權行使の決定といふものは恐ろしく便利にできてゐるものである、と、僕は米國の上院から敎へてもらつた。

それで間違ひはないかと、しかと、**上院に、だめを突いて置く。**

その十一　米國の挑戰ぶり

A

歐洲からきて日本で再吟味された經濟學說でも動力の前では無能であることが明かとなつた。そこで放任主義が始まつた。――この放任主義は無能からきたものであるから主　義といふことは當らないが――。放任は無秩序であり、無統制であり、あきらめであり、成り行き主義であつた、これでも大正の上半までは大きな尻尾を出さないで濟ましてきたが、大正末期には機械が異常な發展を遂げて消費力沈滯時代を出現した、それでも尙ほその對策を發見することとなしに**成り行き主義が今に僕らとともに存在を續けてゐる。**

日本は東洋に於ける資本主義國家であると僕らも信じ、列國からも日本は資本主義のかん〳〵であると罵られてゐながら、その實は社會主義がソビエートの次に行はれてゐる國であ

るといふ聊か驚くべき奇現象を呈してゐる。普選が行はれてから政黨は社會政策を掲げるのに競爭してゐる、無產者もそれがために既成政黨に投票するものが多く、資本主義國家でありながら勞農政策の根が錯綜してゐるといふ**極めて不透明な國情**となつてゐる。

模倣文化の特徵として、日本は今水力電氣と手工業と、藁葺と鐵骨コンクリートと、佛教とマルクス主義と斷髮と丸髷との同居であつて精神的にも物質的にも雜然たるものである。

勞働黨それ自身は攻擊的であり勞働者は產業戰構成の強き鬪士であるが、勞働黨の戰鬪的政策を既成政黨が受入れてそれを改良的なものにして銳鋒を失敬した。

ために激烈な論爭をすかして今日に及んだが、無產黨の振はなかつた理由は產業の不振と失業の增加とによつて爭鬪に要する組合資金を得られず又た代表者の多數を立法府へ送ることもできず、勞働者の現實の利害を遠く疎隔してゐる職業リーダーに岐途へ引つぱり廻はされてゐたためで、たとひ局部の爭鬪に勝つても結果は戰利品を伴はない紙上の勝利に過ぎなかつた。

資力のないものが奔命に疲れて共同利害觀念も稀薄になりかけてゐるところへ、國家社會

主義といつた社會主義でない社會主義が現はれて支那事變を利用して矛盾した分派主義に理論づけることができた。

これは無産主義の勢力を分流させることになつて、同じく資本主義排撃にしても微温的なものであり、國體擁護を政綱の第一項に置くところは、古い温情主義の心臓に脈を搏たせたものである。

日本の温情主義はその屍體を片付けることがなかつたから、再生した、新らしき制度はソビエート思想を加味する米國の機械を中心として工場を組織し、消費力をそのまゝにして生産力を無限大に擴げた。

これは滿蒙から上海へ引火して國難が起つた時に生れた出來合ひ主義であるから長續きする可能性は持たないが、曇り勝ちの學説を擔いで廻ることに厭きた人々には、これも目新らしいものであつたから擧國一致が續く限りは續くものとみるのが適當であらう。

併し本來が無理であるから混亂の起るのは當然であるが、日本にだけは××が起らないものとして安心する議論の根據は××××である。國難に向つては無産者も資本家も一致して

對外硬に清き一票を投じるのは××××もあるが、生きんがための××××も手傳つてゐる。

國粹主義は舊道徳を國體に結付けて××にまで逆及してそれを證明する。**僕らの祖先を浦島太郎と**——假りにさうしたならば——**その太郎の系圖をつくつて龍宮の寫眞版を入れて、**まだ念入りにも毀れかゝつた玉手箱を添えて身許を證明してくれる。

そんなものは經濟爭鬪を調停する甲第一號證ともならぬ、そんな古いものではない、脅威は目前に在る。

日本に於ける勞資共同の敵は米國の機械であり又た國内に輸入された機械である。何とかしてこの機械を葬つてしまはなければ、國境のない勞働精神も國境のある資本主義も一括して倒れてしまふ、**軍縮よりも機械縮である。**機械縮ができなかつたら大砲を撃つ前に生産品を抱いて餓死するか、進んで市場を獲得するために戰爭をするかの二途の一を撰まねばならぬ。政友會はこの機運を見たから後者を選んで選擧スローガンを掲げたら無産者も贊成して自黨の候補者を棄てゝ對外硬論者に投票した。

B

世界の失業者一億三千萬人、この大數は金を持たないで時間ばかりを持つてゐる人たちで全く購買力を失つてゐる。

彼らは機械のために金と物資とから絶縁されて貧乏と親類になつた。働けない人は日々に飢餓に迫つて行き、働く人でも月々に借金を増して行く。

百圓の借金が、手工業時代では十ヤードの織物代金で返濟されたが、今では三十ヤードを持出さねば返濟することができない。百圓が標準であつて十ヤードが標準でないから借金を持つ國は三倍の物資を提供せねばならぬ。貸した國は十ヤードを取つた殘りの二十ヤードは餘剩として原價なしで外國市場へインヴエストメントをすることができる。ドイツの泣くのは泣くべき理由があるのだ。

英國は金融的に軍事的に米國に降服したにかゝはらず政治的にはまだ尨大な屬領を抱いてゐる。英國がいよ〳〵覇權を回復する力がないとすればあの聯邦は實力以上の荷物であるか

ら、その支配權は何らかの形式によて——、獨立、被占領——鬪ひ取られねばならぬ。こゝに**世界的に大きな陷沒地帶が現はれるであらう。**米國に捧げられた供物は大きい。

米國が東洋問題に強い警告を發すると日本の株式は醜い瓦落を演ずる、何といふ體裁の惡い狼狽ぶりだらう。そんな弱い心底でも日本實業家の口ぶりは對外硬である、滿蒙事變でも上海事件でも實業家が率先して硬論を唱へたではなかつたか。しかも公債の發行は怖れる。**日本實業家の景氣觀測觀念は少しく訂正を要しないか。**日本は米國の後に追隨するものであつて米國に好況なくしては日本も不況を脫せられないと、まるで米國の隷屬根性から離脫してゐないが、かつて米國が好景氣の時に日本は不況のドン底にあつた、今米國が底なし沼に脚を突込んだ時に日本は漸く不況の底から這ひ上つたものだ。米國に追隨のその反對に、日本と米國とは地理と同じく、利害も背中合せになつてゐるのだ。

C

手が顫へる、足もふるふ、心臟が高鳴る。心配し給ふな、君！、それは青春の氣分だ、全

身に若き血が漲つてゐる表徴だ、新日本の若人はそれでなくてはならぬ、全くだ、**春の誘惑だ戀を感じてゐるのだ。**

逢見ずば戀しきこともなからまし音にぞ人をきくべかりける——全身にエネルギーが溢れて戀となるのだ、これは古今の歌だが、まだあるよ、詩經に……

靜女それ姝なり、われを城隅に俟つ、愛すれども見えず、首を掻いて踟蹰す……どうだ、處女と思つて油斷してはならないよ、だが、美しい女だ、なぜ遲いのだらう、約束の時間なのだが、どうしたのだらう。この時の君の胸は不安と希望とに充ちてゐるのだ、戀には焦慮は附きものだ、辛抱したまへ。まだ續きがあるのだ。

牧より荑を歸る、洵に美しく且つ異なり、女の美たるに匪ず、美人の貽なればなり……ピクニックから歸りよ、こんな美しい花を摘んでよ、これを貴郎にあげるわよ、美しいぢやない？——花が美しいのではない、贈つた女が美しいのだ。

君は青年日本の男性だ、體には若い血が流れてゐる、だから手も足もぞく／＼と顫へるのだ。なに、さうではないといふのか、飢餓のためだつて、おや、色消しなことを云ふな、道

理で君の吭から通つてゐる息は秋虫のそれだ。君は餓死が苦しいといふのか、ちつと餓死に晒されて運命の終焉を待つことができるか、できないといふのだね、さうだらう、さうなくてはならない。では戰ふか、元氣を出せ！そのまゝに放任したら結論は死だ、**しかも餓死といふ威勢のない死に方だ。**

勞農主義にならうか、資本主義にならうか、どちらがいゝかと考へてゐる間に君は死ぬよ胃袋の中に空氣を塡めて死ぬか、砲彈を滿喫して死ぬか、**買うことのできない滯貨を破壞したら君は活きられるのだ。**

D

人間が生れた時は裸であるが、生れると同時に産衣とともに法律が纏ひつく、私有財産制も國家の主義も法律の基礎となつてゐるから、自分の個性が戰爭に反對であつても國民としては國家の方針に服從せねばならぬことを法律の名によつて命ぜられ、刑務所は個性を強く主張する異端者に向つて準備されてゐる。

米國には米國の法律があり日本には日本の法律がある、同じ人類なら同じ法律を持ちさうなものであるが國によつて法律が違ふ、法律を助けるものに國粋主義があり、道德が修飾し教育が習慣づける。

僕らは國是の傘下に一致しなかつたら國が亡びて大衆は他國の法律に支配される、自國の法律を破棄してもそれより倘悪い他國の法律が代つて坐を占めるから、法律に不平があつても國法に從ふことが賢明であるといふあきらめに到達する。

僕は京都で生れ東京で成長し、いま大阪で暮らしてゐるがゆゑに日本人である。**この地理的偶然が僕をして日本人たらしめたのであつて僕が好んで日本に生れたのではない。**

もし僕がロンドンに生れてゐたら今ごろは石炭産出量の少いこと、海上權益が他國に侵蝕せられつゝあること、紡績が日本工業の脅威を受けてゐること、金融中心が米佛に横奪されたこと、勞働組合が餘りに横暴なこと、僚邦が本國の危難を助けてくれないことなどを憤慨して「次の問題」とちがつた論文を書いてゐるかも知れない。

僕の眼が黒くして、僕の頭髪が金色でないがゆゑに僕が日本人となつたのではない、僕の

眼が碧く、僕の頭髪が黒でなくとも歸化すれば日本人になれる。**日本人となつたのは、そんな理由ではない、極めて單純な手續きが決定する**、僕は戸籍によつて日本人となつた、理由は登録された戸籍的根據を出でない。兵役の義務も思想によつて盡すのではなく戸籍簿によつて徴集される。選擧權にもさうだ、**そんな帳簿の骨組みで國家が組織されてゐるのだ**。さういへば戸籍が主で僕が從屬者のやうだが、君！　**戸籍が僕を造つたのではない**「もう、わかつてゐるよ」「**僕が生れて戸籍が作られたのだ**」「また戸籍か、くどいね」、だが、**戸籍が無かつたら僕は國家に盡すことができない、戸籍に支配されてゐるのだ**。「もういゝよ」松島見物に出かけて旅館で原籍を僞つたら罪になるよ、これでは遊びに出かけたのか、容疑者となつて逃げてゐるのか、**何だか戸籍に追跡されてゐるやうだ**、そのだん支那人は戸籍が無いからあんな樂天的な無拘束な氣分になつてゐられるのだ、**文明人は戸籍に魅入られてゐるやうだ。**

彼れが米國人となつたのも出たらめで、僕が日本人となつたのも漫然であつて基本不文律で釘付けにされてゐるのでも亦た先天的に敵同志でもなかつたが、お互に二國人が對抗して憎悪し合ふやうに戸籍が仲を割いてきたから、彼れがモンロー主義を唱へたら、僕らはアジ

ア主義を唱へるのだ、なぜならばアジアに住んで、アジアに戸籍があるからである。

人類的に大觀したら融和すべき理由が多く、戰ふべき要因は極めて少いのである、しかるに何ゆゑに戰はねばならぬか、そんな淺墓な質問は、その質問の中に解答を含んでゐるから解答する必要はないが、全世界が相互依存の氣にならねば正直に人道と平和とに執着してゐる國が先づ亡びるのだ。僕は日本が亡びるのが嫌やだから淺墓ながら地理的根據だけで彼れに抗爭するのである。

こんな奥行のない抗爭を續けてゐたと笑はれる時代が遠い將來にくるであらうと思ふ、世界が心からの平和に包まれる時代は、人間が殺戮に厭きてからのことである、僕らの一生にはそんな時代はあるまい、で、**仕方がなく僕らは戰場で暮らすのだ。**

E

國際關係を水平にして聯盟では一國一票の表決權を與へ、發言權も平等にする規約にはなつてゐるが事實は金が物をいふ。**國際の回轉中軸が二つ、**米と佛とで強制的に平和を世界に

突き付けてゐる。これに反對するものは武力で行かうといふのであらば平和でも何でもない。

歐洲大戰にも乘り出した戰爭好きが今は東洋へも出しやばつて、空の脅威を揭げて睨みつけるにおいては太平洋に面して國を建てゝゐるものは軍備の充實なくして一日も安眠することはできない。金で追ひまくられてゐる國は東に日本、西にイタリー、どちらも隣に強い金權的敵手を持つてゐる貧乏多產國である。

自然物の缺陷、狹小な土地、人口增加と植民地の不足、移民の被排斥、鐵、石炭その他重要原料の缺乏が何等かの手段によつて排除せられねばならぬ、と、イタリー代表は國際軍縮會議で、世界に向つて、特にフランスに向つて呼號した。

これは日本のことを代辯してくれたのかと思つたら、イタリー自身のことを云つてゐたのであつた。同じやうな國情からイタリーが先づ軍國化した、日本も聯盟から壓迫されたら同じ運命を辿るべきその草開きをイタリーがやつたのではないか。

戰勝國の中心を成してゐるフランスに對して、同じく戰勝國ではあるが不平の中心を成してゐるイタリーが戰敗國を聯ねて對フランス・ブロックを構成して、歐洲を平靜に復するた

めの、亂麻の緒は發見されない。

各國殊に特異性地理をもつた參加國が多いことだけでも、すでに結論の困難を暗示し、議案の廣汎なことが會議を氣體化せしめる。

會議の前に三十の大國が集つて方式案を作成した時にさへ列國は各自の條件を付けた同意で、開會前から案に眞劍味がなかつた。

軍縮會議でパナマ代表のいふところを聞け、「吾國は湖上に乘組員二名を搭載する軍艦一隻あるのみだ、これは動かせないから繫留してある、軍縮會議はこれをどうしろといふのか、どう縮少していゝのか、決議によつては全廢するに吝かでない」——この徹底した國も立派に發言權も票決權も持てゐるのだ。

國際會議に蚊のやうに取び交うてゐる弱少國の正義論は强國の侵略を恐れる心理を基礎としてゐるから猜疑心が意見を支配してゐる、たとへば日支に事變が發生したら理非を檢討することなく支那を擁護する。

强國が崇高な平和觀念から自身先づ軍備を抛げ出してかゝるのではなくして、空腹をかゝ

へながら年額百億ドルの軍備費を空に捧げる苦痛に堪へられないことが主たる參加理由で、經濟的苦境の一時逃れに過ぎない。

軍縮會議の尨大なる外延に包括される六大内容である人員、器材、豫算、報導交換、化學兵器、一般規定といつた複雜なものが、どういふ保有數字を嵌めて整理されるかより軍事的對立を却つて激化させはしないかの危惧が先に立つ。

F

軍縮規約はアングロサクソンの便宜に出來た强壓的獨裁的の成果で、「條約の名に値しない」とは日本のいふべきことを、これもイタリー代表がづけ〱と云つてのけた、佛伊は軍縮から賠償問題を環つて角逐を卓上に續けてゐる。

ファッショと云はれることを嫌つて、民主主義の啼き聲を出さうとするから日本代表の言葉は不透明である、日本ではそのつもりでも外國は公然と日本を軍國主義國家と呼んでゐるのだ、そんな表面の糊塗を事としてゐるからイタリー代表のやうに思つたことを大膽に主張

することができないのだ。何の遠慮することがあるのだ。

國際は支那の不戰條約の精神に反する犯罪以上の不善意大過失を寛容して日本の隱忍を強い、かくして支那を增長せしめ日本の權益に向つて攻擊的侵害に移らしめる、これは驚くべき非行であつて支那のやうな無組織な國家に對しては列國が**教訓的に强制的に義務を守らせるやうに、國際の名において權利を行使せねばならぬはずではなかつたか**。日本の對支自衞手段は同時に對國際自衞手段であつて外交遊戲としては餘りに眞劍である、支那に日本の攻擊を不當とする理由が成立するならば、それ以上の正しさをもつて日本が自衞手段を取る正しさが成り立つ。

G

米國が丸腰になつて金貨根性を棄てない限り各國が競爭して積みあげた最惡の高塔は崩れない。各國から資本年賦償還の利子と配當とを米國に捧げるためには世界年產高の金の三倍を必要とする、そんなことは魔術の杖で黄金を產み出すにあらざれば出來ないことである。

米國の餘剩は年々に增加する、增加した餘剩は世界に向つて再投資される、その利子を支拂ふに金をもつてせねばならぬが、世界の產金高では及ばないことである。物品をもつて償還しやうとすれば米國には機械生產品が滯積してゐるから米國は關稅によつてそれを拒んで金をもつて支拂はせやうとする。

現在でも困つてゐる上に更に米國內に滯積せる機械生產品を持出して他國の重荷の上に重荷を加へ、それで負擔を輕くさせやうとする矛盾は、首縊を助けるために脚を引つぱるものである、この借金が踏み倒せないものなら永劫に解決の見込がない、**見込のないものはどこまで追究しても解決てはない。**

現在の國際交換は、その媒介を爲すべき金が不足なのである、一方に偏してゐるための不足であるから物々交換を許さないとすれば勢ひ「繰延べ」を行ふ外はないのであるが、長期に引延ばしたならば金利が嵩んで金の尺度が益々長くなる。

同時に禍亂を切棄てるのではなくして、禍亂を延長する方法てある。

市場の購買力は、もう終點が見え透いてゐる、米國の機械大量生產品を金で消化させるや

うな市場はあり得ない、消費市場の擴張は決して望めないことであるから前途の破綻を學說で綴り合はすことができないため、**經濟學者は立つて席を軍人に讓らうとしてゐる。**

各國に軍縮を強いて、それによつてできた餘剩を米國に貢げといふのが本當の肚であらう米國は來るべき第二次世界大戰の戰死者のために大きな墓を掘りにかゝつてゐる。

金が正義より正しい時代である、金はないが正義ならいくらでも國際間に轉がつてゐる。米國が十個の正義箇條書を出せば、こちらからは二十個の正義を積みあげて對抗することは何でもない、正義は學者でいくらでも製造されるからである。米國が百億の正貨を出してみせたらこちらから、二百億の正貨を積んでみせる――ことはできない、正義は金より廉い。

日本をも加へた世界は經濟異變を救ふことなく成行き主義で、行くところまで行かねばならぬが、**道が米國はいゝことを考へた**、それは流行心理學で右向けに方針を轉換したことである。

流行心理學といつても正しい意味の學問ではない、これまでの學說、歷史を無視して衆愚を煙に卷く、いはゞ煙幕のやうな、一名宣傳心理學又の名は應用心理學であつた。

黑い上衣に靑いズボンがシークだと暗示したら一週間目には全米國人の腰から上は眞黑に腰から下は眞つ靑となつて白も黃も赤も無くなるであらう、二週間目には大西洋を越して、一ケ月後には太平洋を越して、歐洲も東洋もヤンキーボーイは席捲されてしまふ、宣傳心理學は機械の助けを藉つて廣い範圍の人を、できるだけ下卑た流行に統一してしまふのである。

この調子で、歐洲大戰前に英國の對ドイツ宣傳の故智を借りてきて、**日本に世界征服の野心あり**と叫んで國際反日ブロックをつくつた。

迷惑なる哉日本は僅かに南滿の田舍鐵道を守るだけで懸命であるものが、世界征服なんかは蚊をして重爆彈を負はしめるより重荷である。米國が世界を征服するといへば聞へるが、日本では征服する方が餘り小さくして、征服せられるものが餘りに大きい、世界征服は夫子自身でやるがいゝ、日本に取つては餘りに夢である。そんな夢でも國際聯盟員に信じさせたのは米國の宣傳心理學である。

宣傳心理學、人氣轉換術、信用擴張論、景氣煽揚法と、手を換へて景氣を突張つてゐるが、僕らは米國富力の實體を見とゞけたから、そんな宣傳的洞喝に乘つてはならぬ、**陰氣よ**

り陽氣に、**實勢より虛勢に、すべて氣分であつて實相ではない。**

個性の壞滅であり哲學の破摧であるが、力の決定主義は今全米に號令を下してゐる——彼は今何を呼號してゐるか——。**國内における階級爭鬪をやめよ、國外における、特に東洋における殺戮に一致する用意をせよ**、と。

この宣傳が感情を行過ぎて、政治的手段でそれを制止することのできない程度に逸脫した時が××戰爭である。國内で性的に男子を征服した婦人は眞先にこれに贊成した、婦人の力は米國において恐るべきものである。その婦人が反日宣傳の網に容れられてしまつた。

精銳な飛行機は三萬五千フキートを飛べる、その機能から推したら日本の爆擊粉碎は可能であるといふ肯定線に乘つたといつて彼らは歡喜の聲をあげてゐる。歡喜の聲は排他憎惡の聲であるが彼等はこれを隣人愛の叫びだといふ、日本も仕方がないから米國機の訪問に對して歡迎の意を表し、×××を撮影されても萬歲といふ。

この飛行機の飛び廻はるのも宣傳心理學の應用ださうだ。その部隊編成が機械構成と同じ組立てゞあり將帥の命令が動力である、動力が通ぜられたら一齊に活動する仕掛けに整頓せ

られてゐる、この物騷な制度に不服を唱へるものがないのは宣傳心理學で製造せられた輿論である。**この輿論が日本に對して決定的非難を浴せてゐる。**

米國以上に變體心理の持主は支那人である、あの交通不便な大陸でありながら上海で排日を一呼すれば雲南、泗川、山西の山奧まで反響して三週間を出でないうちに日支貿易表は數字的に排日の效果を示す。

こんなもの輿論といひ、群衆心理といひ、流行といひ、何といつてもいゝが、何の認識もなく排斥に一致する。保守のやうであり突飛のやうであり、平和民族のやうであり、好戰國民のやうであり不可解の人々である。國家が變調になる時は國民の心理狀態が先づ變態になる、**いゝ米國の相棒である。**

米國の好戰的活動力は張り切つてゐる、國内には消化し切れないから相手を物色して日本を得た、**日米對抗の結論は戰爭だ**と、彼らはさう極めてしまつてゐる、彼らは直線だが、日本の方針はまだ曲線的であつて日米戰の必然性を信じてゐないものもあつて、和戰兩樣の陣立てといつた煮え切らないことをいつてゐるものさへある。

日本ほど國論に自我説を發揮する國民はない。平和論者、戰爭主義者、無抵抗論者、崇露排米とその反對と、排支と親支と、左傾と右傾と、こんな分野が、それ〳〵**相當の傾聽者を持つて競ひ立つてゐた。**

日本は過去の不景氣を清算することなしに第二産業革命の階段に乘りかゝつた、乘り切らないうちに滿蒙と上海とに事があり、**平時における亂雜な思想を統一して漸く或る決心に纒めをつけた。**かくして吾々は白人金融帝國と鐵火的外交を開始せねばならぬ非常時に遭遇した。

僕らの希望は割合に澹白である。

アジアの安定は我々の努力に對する報酬であり、日支が心から融け合つて始めて我々の犧牲の一切が償はれる、これは日本が有色人種に盡すべき警察的奉仕の外に何物もない。

昭和七年四月五日印刷
昭和七年四月十日發行

不許複製

上海事變のその次の問題
定價金壹圓
送料八錢

著作者　北村佳逸
大阪市西區阿波座下通二丁目三十六番地
發行者　瀧本恭治郎
大阪市西區阿波座二番町一番地
印刷者　堀越幸
大阪市西區阿波座二番町一番地
印刷所　日本印刷製本株式會社

發賣元　改善社
大阪市西區阿波座下通二丁目卅六番地
東京市神田區錦町一丁目二番地
振替大阪七五九三九番
電話新町一六二五番

北村佳逸著

日本は衰へるか!

四六版　三百二十頁　第五版

定價金八拾錢

高級讀書子を唸らせた快著!!

發行所　大阪市西區阿波座下通二
東京市神田區錦町一ノ二

改善社

振替大阪七五九三九番
電話新町一六二五番